

令和元年
岩手県教育委員会定例会
12 月

岩 手 県 教 育 委 員 会

令和元年 12 月 岩手県教育委員会定例会議事日程

令和元年 12 月 16 日（月）午後 1 時 30 分

第 1 会期決定の件

- | | | | |
|------|----------|--|---------------|
| 第 2 | 事務報告 1 | 令和元年 12 月県議会定例会の概要について | (教 育 企 画 室) |
| 第 3 | 事務報告 2 | 令和元年度岩手県小・中学校学習定着度状況調査結果について | (学 校 教 育 課) |
| 第 4 | 事務報告 3 | 令和 2 年度県立一関第一高等学校附属中学校入学者選抜に係る出願状況について | (学 校 教 育 課) |
| 第 5 | 事務報告 4 | 「県立博物館における文化財への不適切行為事案」調査の経過報告について | (生涯学習文化財課) |
| 第 6 | 議案第 25 号 | 岩手県教育振興基本対策審議会委員の任命に関し議決を求めることについて | (教 育 企 画 室) |
| 第 7 | 議案第 26 号 | 岩手県いじめ問題対策委員会専門委員の任命に関し議決を求めることについて | (学 校 調 整 課) |
| 第 8 | 議案第 27 号 | 岩手県立博物館協議会委員の任命及び解任に関し議決を求めることについて | (生涯学習文化財課) |
| 第 9 | 議案第 28 号 | 学校職員の懲戒処分に関し議決を求めることについて | (教 職 員 課) |
| 第 10 | 議案第 29 号 | 学校職員の一般の退職手当等の全部を支給しないこととする処分に関し議決を求めることについて | (教 職 員 課) |
| 第 11 | 閉 | 会 | |

令和元年12月県議会定例会の概要について

12月県議会定例会の概要は、次のとおりであった。

1 日 程

11月27日（水）	本会議（招集）
12月3日（火）～5日（木）	本会議（一般質問、質疑、委員会付託）
12月6日（金）	休会（常任委員会）
12月10日（火）	休会（復興特別委員会）
12月11日（水）	本会議（採決：補正予算等）

2 一般質問

(1) 党派別一般質問議員数（9人）

希望いわて	3人
自由民主党	2人
いわて新政会	1人
いわて県民クラブ	1人
日本共産党	1人
無所属	1人

(2) 一般質問（教育委員会関係：6人）

ア ハクセル 美穂子 議員 4件

(ア) 教育機会のあり方について

- ① 個性や能力を発揮するための教育について
- ② 言語活動の取組について
- ③ 小規模高校の魅力向上のための方策について
- ④ 不登校児童生徒の教育機会の確保について

イ 柳村 一 議員 1件

(ア) 新しい時代を切り拓くプロジェクトについて

- ① プロジェクトの取組について
- a 学びの改革プロジェクトについて

再質問 学びの改革プロジェクトについて

ウ 高田 一郎 議員 4件

(ア) 子どもの貧困問題と子育て支援について

- ① 子ども生活実態調査「中間報告」を受けた県の対応について
- a 就学援助世帯の負担軽減について

再質問 就学援助世帯の負担軽減について

(イ) 教員の多忙化対策と学力テストについて

- ① 学力テストの実施状況について
- ② 2020年度学習指導要領本格実施による授業時間数の増加について
- ③ 変形労働時間制導入について

エ 小野 共 議員 3 件

- (ア) 外国人との共生について
 - ① 在留資格を持つ外国人について
 - a 外国人子弟に対する教育について
- (イ) 大学入学共通テストについて
 - ① 新しい試験のあり方について
 - ② 記述式試験について

オ 千葉 秀幸 議員 1 件

- (ア) スポーツ振興について
 - ① 部活動指導員の強化について

カ 上原 康樹 議員 2 件

- (ア) 教員の時間外勤務について
 - ① 産業医による面接指導の周知について
 - ② 面接指導を受ける際の不安への対応について

(3) 答弁

答弁は、教育長が行った。

3 文教委員会

【12月6日（金）】

(1) 議案の審議（議案第1号、議案第9号及び議案第22号）

ア 議案第1号「令和元年度岩手県一般会計補正予算（第4号）第1条第2項第1表歳入歳出予算補正中歳出第10款教育費のうち、教育委員会関係」について、佐藤教育次長兼教育企画室長から提案理由の説明を行った。

齊藤信委員から質問があり、関係課長が答弁した。

原案どおり可決された。

イ 議案第9号「県立学校授業料等条例の一部を改正する条例」について、山本予算財務課長から提案理由の説明を行った。

城内よしひこ委員から質問があり、関係課長が答弁した。

原案どおり可決された。

ウ 議案第22号「損害賠償請求事件に係る和解及びこれに伴う損害賠償の額を定めることに関し議決を求めることについて」、清川保健体育課総括課長から提案理由の説明を行った。

質問はなく、原案どおり可決された。

(2) その他（この際発言）

城内よしひこ委員、千葉盛委員、千葉絢子委員、齊藤信委員、小西和子委員及び上原康樹委員から質問があり、教育長、教育企画推進監及び関係課長が答弁した。

4 東日本大震災津波復興特別委員会

吉田敬子委員及び齊藤信委員から質問があり、教育企画推進監が答弁した。

※ 各議員毎の件数は項目数であり、同一項目の関連質問は含んでいないため、件数と答弁実績数は一致していないこと。

令和元年度岩手県小・中学校学習定着度状況調査結果の概要について

1 調査の目的

各小・中・義務教育学校において、児童生徒一人一人の学習の定着状況を把握し、その結果を基に指導の充実を図る。

また、全県的な規模で学習の定着状況を把握するとともに、明らかになった学習指導上の問題点を教育施策に反映させることにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査の内容

調査種類		実施日	調査対象	対象数
教科調査		令和元年10月2日(水)	公立小学校第5学年 ※義務教育学校第5学年含む	9,613
			公立中学校第2学年 ※義務教育学校第8学年含む	9,252
意識調査	児童生徒	令和元年10月1日(火) ※教科調査実施日の前日	公立小学校第5学年 ※義務教育学校第5学年含む	9,510
			公立中学校第2学年 ※義務教育学校第8学年含む	9,193
	学校	令和元年9月25日(水) ～10月3日(木)	公立小学校及び義務教育学校	310
			公立中学校及び義務教育学校	158

【各教科等の実施状況】

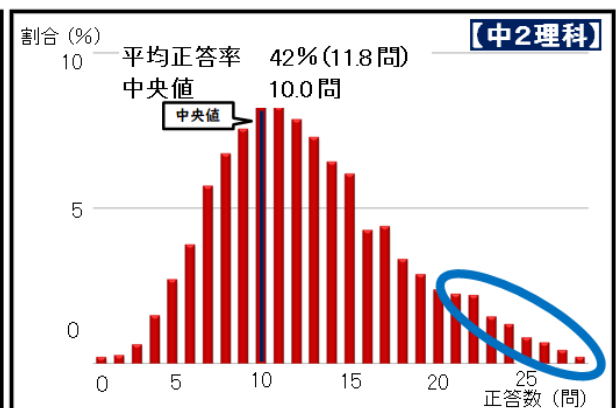
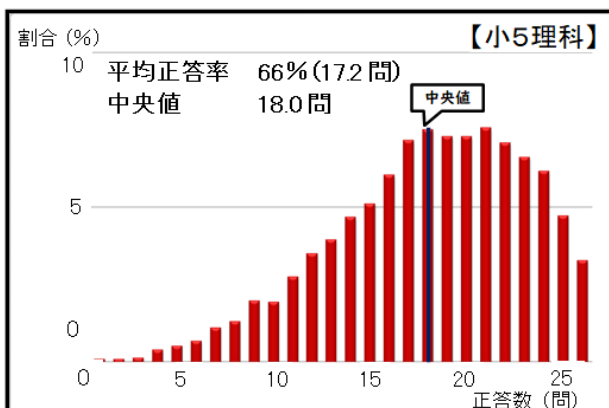
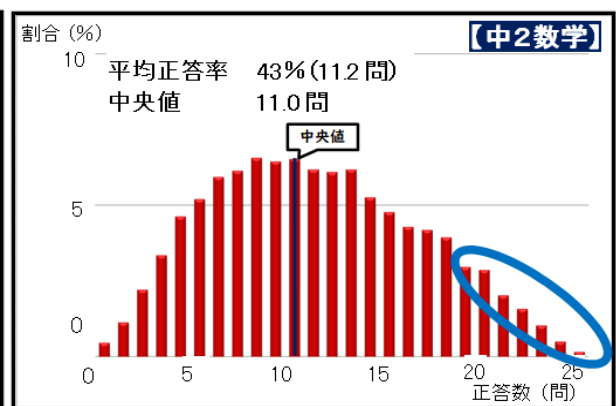
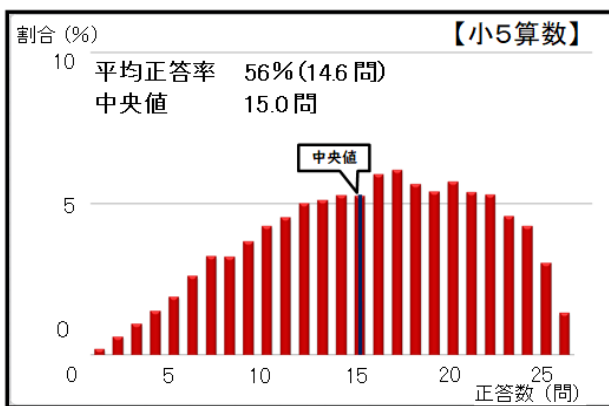
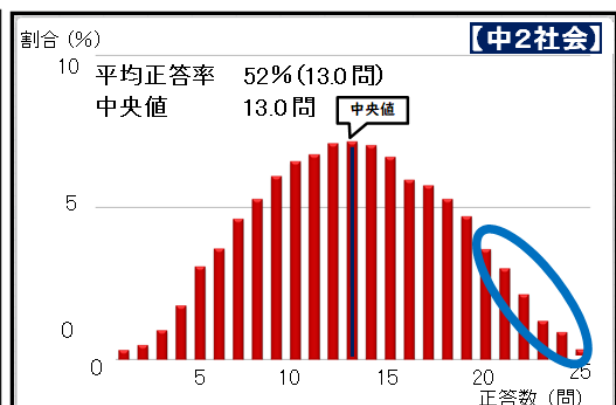
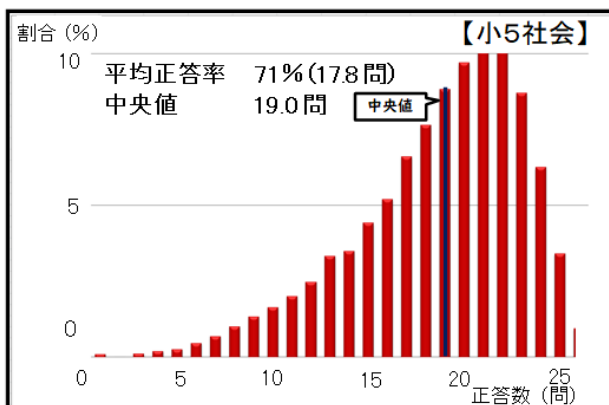
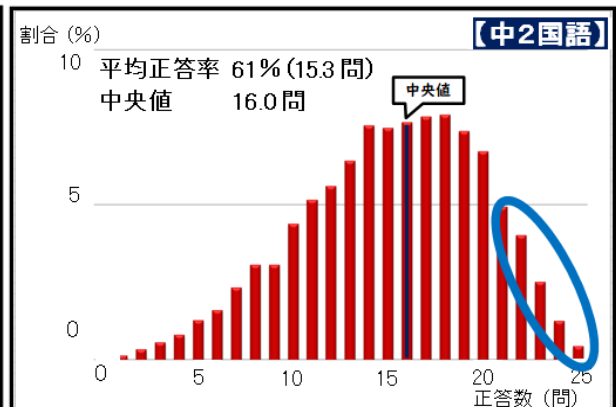
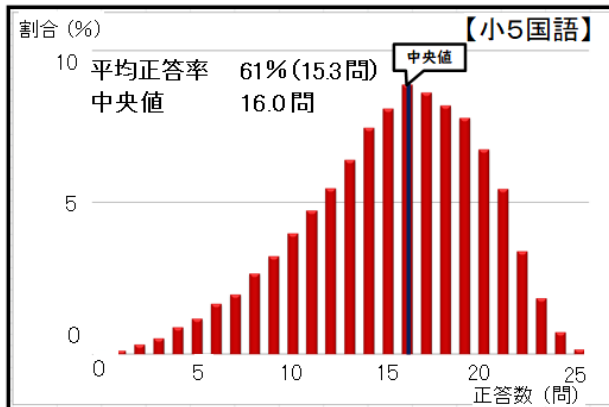
	国語	社会	算数・数学	理科	質問紙
小学校第5学年 (310校)	9,580人	9,613人	9,581人	9,551人	9,510人
中学校第2学年 (158校)	9,252人	9,249人	9,232人	9,248人	9,193人

【出題の方針】

- (1) 読み・書き・計算といった学習基盤及び各教科等における基礎的・基本的知識や技能とともに、その知識や技能を活用して自らの人生を切り拓いていくために必要な思考力、判断力、表現力等の定着を目指す。
- (2) 全領域を調査する。
- (3) 観点を明確にして作題する。
- (4) 全国学力・学習状況調査では、今年度から、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、従来のA問題とB問題という区分を見直し、知識・活用を一体的に問うこととしている。このことを踏まえ、本調査においても、同様に一体型の問題を出題することとする。一体型の問題数については、解答時間や児童生徒への負担等を考慮し、大問1～2題程度とする。
- (5) 全国学力・学習状況調査において従来B問題として扱われてきた問題と同程度の問題を、活用問題として、全調査教科において3～4割程度出題する。ただし、先に示した一体型の問題のうち、活用問題に相当する小問を含めた割合とする。
- (6) 過去の調査において、課題があるとされた内容についてその改善状況を把握したり、定着が図られているとされた内容について、現在も維持できているかどうかを把握したりするために、経年比較問題を2～3割程度以上出題する。

3 教科調査結果の分析

(1) 各教科の正答数分布状況



※各教科の分析については、今後、報告書の中に記載する。

(2) 経年比較問題（過去の調査において課題が見られた問題等と同趣旨の問題）の状況等

【各教科における経年比較問題の状況】

()内は昨年度数値

教科	学年	経年比較 問題数	課題状況の改善が 見られた問題	改善傾向が見られ たが引き続き注視 が必要な問題	依然として課題が 継続している問題
国語	小5	6 (6)	0 (0)	1 (3)	5 (3)
	中2	6 (6)	2 (2)	0 (1)	4 (3)
社会	小5	8 (9)	6 (6)	0 (3)	2 (0)
	中2	8 (8)	1 (2)	3 (3)	4 (3)
算数 数学	小5	8 (8)	1 (2)	4 (1)	3 (5)
	中2	7 (10)	3 (0)	2 (1)	2 (9)
理科	小5	8 (6)	0 (0)	4 (2)	4 (4)
	中2	9 (8)	0 (2)	5 (3)	4 (3)
全体		60 (61)	13 (14)	19 (17)	28 (30)

※経年比較問題として出題した問題の改善状況について、以下の視点で分析を行った。

○「改善された」……正答率が概ね小 70%、中 60%以上(問題の内容によってはそれ以上)

◇「改善傾向」……正答率が前回調査より5ポイント以上上昇

●「課題が継続」……正答率の伸びが前回調査と比較して5ポイント未満(もしくは下回る)
(「課題が深刻化」…正答率が前回調査を著しく下回る)

全 60 問中、約半数の 32 問で改善の傾向が見られた。昨年度実施の調査結果を受けて、各校における授業改善の取組が進んでいると考えられる。

一方、小学校国語（6問中0問の改善）、小学校理科（8問中4問の改善）は、課題が継続している状況にある。

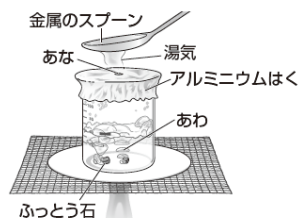
今年度は新学習指導要領の趣旨を踏まえ、より思考力や知識・技能の活用場面などの問題を積極的に出題していることも一因であると考えられる。

以下に、課題が継続している問題の例を示す。

【小学校理科 課題が継続している経年比較問題の例】

7 水のすがたについて、次の(1)、(2)の問題に答えてください。

(1) 水を熱したとき、あわや湯気がさかんに出てきます。次の図のように、出てきた湯気に金属のスプーンを近づけたところ、スプーンの上に水てきがつきました。あわと湯気の正体について正しく説明しているものはどれですか。あとの1～4の中から1つ選び、その番号を書きましょう。



- 1 あわは空気、湯気は水じょう気である。 39%
- 2 あわは空気、湯気は水の小さいつぶである。 20%
- 3 あわは水じょう気、湯気も水じょう気である。 11%
- 4 あわは水じょう気、湯気は水の小さいつぶである。

H30【正答率 26%】

R1 【正答率 29%】

この問題については、昨年度から正答率が3ポイント上昇はしているものの、依然として低い水準である。沸騰したときの「水の状態変化」に対する知識の意味理解が不十分であることが要因の一つと考えられる。観察・実験を通して、水の状態の変化に着目し、温度の変化と関係づけて調べたり、水の状態についての正しい表現をさせる機会をしっかりととつことが重要である。

【授業改善の手引より】

2 指導のポイント

(1) 水の状態の変化に着目し、温度の変化と関係付けて、水の状態の変化を調べましょう。

ア 問題の概要

7(1) 沸騰した水から出る湯気とあわの正体を理解している。

正答 選択肢4

正答率 29%

イ 誤答分析 (無解答率 1%)

選択肢1「あわは空気(誤)、湯気は水蒸気(誤)」は39%、選択肢2「あわは空気(誤)、湯気は水の小さいつぶ(正)」は20%、選択肢3「あわは水蒸気(正)、湯気も水蒸気(誤)」は11%、その他は1%でした。この結果から、沸騰した水から出るあわを空気と判断している割合は59%、湯気を水蒸気と判断している割合は50%と多いことがわかります。水はどのような姿に変わるのか、水の状態の変化に着目し、温度の変化と関係付けて調べさせる必要があります。また、水の状態について正しく表現させる機会を設ける必要もあります。

ウ 指導上の留意点

- 湯気やあわの正体について、生活経験や既習の内容を基にした根拠のある予想を立てさせます。その際、児童のもつ湯気や水蒸気のイメージを把握し、実験で着目すべき点を明確にします。
- 予想を基に、実験結果がどうなるのかという見通しをもたせます。例えば、あわを袋に集めたとき、あわの正体が空気なら袋は透明のまま膨らみ、水なら袋に水がたまる等、児童が見通しをもつようにします。
- 湯気をスプーン等に当てて水滴を集める実験、あわを集めて袋に液体の水をためる実験を行わせ、水の状態が変わる一部始終を観察させます。観察後すぐに、記録を書かせます。
- 湯気やあわの正体について、予想を振り返りながら実験結果を基に考えさせます。話し合いを通して、使う言葉を整理していき、まとめます。また、児童が湯気やあわの正体について表現する機会を設けます。
- 単元の終末に、水は温度によって固体、液体、気体に変化することを整理します。その際、湯気は目に見えるので液体の水であり、水蒸気は目に見えないので気体の水であることを捉えさせます。

エ 指導展開例

小学校4年生 「水のすがたと温度」

◎本時の目標

水の状態の変化に着目し、沸騰した水から出てくるあわの正体は水蒸気であることを、実験結果を基に考え表現することができる。

学習活動		
<p>思考を引き出す発問例</p> <p>水を熱して、沸騰して出てきたあわの正体は何でしょう。結果を理由にして考えましょう。</p> <p>空気と姿が似ていたけれど、空気ではないのはなぜかな。</p>	<p>1 問題を確認する 前時の振り返りから、沸騰した水から出てくるあわの正体は何か、実験結果を基に考える時間であることを確かめる。</p> <p>2 結果から考える 結果を記録したノートや、結果の様子を撮影した動画を参考にして、あわの正体は何かを考える。 ビーカーの水が減ったことや、袋の中に水がたまったことから、あわの正体は水であることをとらえる。 空気のような姿になっている水を水蒸気ということを知る。</p> <p>3 まとめる 沸騰した水から出てくるあわは水蒸気である。 沸騰した水の図を用いて、湯気や水蒸気について説明する。</p> <p>4 児童に期待する振り返り例 あわは、空気と予想していたけれど、実験をして考えたら、水じょう気だということが分かった。</p>	<p>児童生徒の反応等</p> <p>袋の中に水滴が付いて、水がたまりました。だから、水だと考えます。</p> <p>ビーカーの水が減っていました。袋の中の水の分だと思います。</p> <p>空気だけを袋に集めても、水滴は付きません。だから空気ではありません。</p>

(3) 活用問題（基礎的・基本的な知識・技能を活用する力を見る問題）の状況

これまでの各種調査結果から、基礎的・基本的な知識・技能の活用を図る問題に課題が見られることから、各教科において、活用に関する問題を1～2割程度出題した。

ア 小学校は、全般的に正答率が上昇傾向にあるが、低い水準にある。特に国語と算数については、H30年度まで実施していた全国学調のB問題の分析を生かして、より思考力や知識・技能の活用場面などの問題を積極的に出題していることも一因であると考えられる。

【各教科における活用問題の状況】

小学校5年(異集団比較)	国語	社会	算数	理科
問題数	5	8	7	7
正答率()はH30、()はH29	44% (40%) (42%)	64% (58%) (69%)	46% (27%) (54%)	66% (57%) (63%)

イ 中学校は、H28年度実施調査から比較して見ると、全般的に正答率は低下傾向にある。特に国語、数学、理科においては活用問題の数を増やし、全国学調の状況も踏まえ、より思考力を問う問題に見直しを行っていることも一因であると考えられる。

中学校2年(同一集団比較)	国語	社会	数学	理科
H28県学調小5 正答率・(問題数)	50% (5問)	51% (4問)	61% (5問)	51% (6問)
H29全国学調小6 正答率・(問題数)	60% (B問題9問)	—	45% (B問題11問)	—
H30新入生学調中1 正答率・(問題数)	49% (3問)	—	47% (7問)	—
R1県学調中2 正答率・(問題数)	47% (7問)	34% (4問)	24% (8問)	38% (10問)

ウ ア・イに関連して、意識調査からは、「発展的な学習」に関する取組状況について、学校及び児童生徒双方とも積極肯定の割合が少なく不十分である状況が見られる。

【学校質問紙調査:14】

どの児童も伸ばすことを意識して、発展的な学習の指導をしていますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
小学5年	H30	14	58	27	1
	R1	15	63	21	0
中学2年	H30	9	66	25	0
	R1	17	61	22	0

【児童生徒質問紙調査:12】

学校の宿題などに加え、弱点を克服する学習に取り組んだり、発展的な問題に取り組んだりしていますか。

学年	年	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
小学5年	R1	22	43	25	10
			65		35
中学2年	R1	13	40	33	14
			53		47

【中学校社会 課題が継続している活用問題の例】

8(1) (経年比較・活用問題)

<社会的な思考・判断・表現>

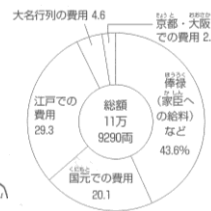
【問題文】 次の文章中の参勤交代の制度について、あとの資料ア、イをもとに調べ、生徒たちが話し合っています。発言中の□にあてはまる適切な内容を、「財力」「幕府」ということばを用いて書きなさい。

江戸幕府は武家諸法度を定め、大名の築城や結婚などに制限を設け、大名の統制をきびしくした。第3代将軍である徳川家光は、大名の妻や子どもを江戸に住ませ、大名に江戸と領地を1年ごとに行き来させる参勤交代を制度化した。右の絵は、大名行列の様子を表したものである。



資料アから、大名行列の費用や江戸での費用など、多くの費用がかかっていますね。徳川家光が参勤交代の制度を取り入れた目的として、どのようなことが考えられますか。

資料ア ある藩の1年間の支出



資料イ 武家諸法度(寛永令)の一部

一 大名小名、在江戸の交替相定むる所なり。毎年所定時節参勤致すべし。従者の員数近來甚だ多し。且は国郡の費、且は人民の勞なり。向後其の相定を以て、之を減少すべし。……(大名・小名の在所と江戸の交替は、毎年決めた時期を守り参勤すること。従者は多数にせず相定に減らすこと。ただし公役のときは財力に応じ)

目的があったと考えられます。【正答率 29%】(無解答率 27%)



【授業改善の手引より】

イ 誤答分析

誤答例として「藩の財力を低下」「幕府に反抗させない」のどちらか一方のみ記述している反応率が15%（抽出解答より）であり、各資料からわかることを関連付けることができていると考えられます。また、無解答率も24%であることから、指定されたことばを用いて記述することに難しさを感じる生徒が多いと推察されます。

ウ 指導上の留意点

歴史的分野の学習全体を通して、各時代を特徴付ける法令や政策などの「意味」・「意義」や「特色」などについて、生徒が社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせる発問をもとに、いくつかの資料を関連付けて説明したり、課題について適切なことばを用いて再構成して表現する活動を取り入れたりすることが大切です。

指導展開例

中学校2年生 単元名：江戸幕府の成立と対外関係

◎本時のねらい

江戸幕府の大名に対する諸政策の意味・意義を、幕府の支配体制の確立という視点から説明することができる。

思考を引き出す発問例

☆鎌倉時代、室町時代と江戸時代の長さを比べて、どのようなことを感じますか。

☆ 時間の推移、比較による差異

資料から、どのようなことがわかりますか。

☆江戸幕府は、なぜ武家諸法度や参勤交代を定めたのでしょうか。

☆資料からわかることに共通する幕府のねらいは何でしょうか。

☆ 事象同士の因果関係

☆江戸幕府が260年も全国を支配することでできたのはなぜですか。

☆ 時間の推移、事象同士の因果関係

☆ 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせた発問

学習活動

1 学習課題の設定

なぜ江戸幕府は、260年も全国を支配できたのだろう。

2 予想 (大名の統制、身分制度、対外関係、他に分類する)

3 学習課題の追究

(1) 幕府領と大名領の割合、大名の配置、武家諸法度と参勤交代等の資料を読み取る。

(2) ○資料からわかったことを比較し、それらに共通する幕府のねらいを考え、資料をもとに説明し合う。

4 まとめ

○江戸幕府が260年も全国を支配することができた理由を、ポイントとなる政策とそのねらいを挙げてまとめる。

江戸幕府は、支配体制を維持するために大名の配置を工夫したほか、武家諸法度の制定や参勤交代の制度化により大名の軍事力、経済力を抑え、幕藩体制を固めた。

生徒の反応

なぜ260年も続いたのだろうか？

城の修理や新築は禁止されていることがわかります。

大名は1年おきに江戸で生活しなければなりません。

築城や大名の結婚の制限は、藩の軍事力を弱めて幕府に反抗できないようにするねらいがあったと思います。

大名は参勤交代で藩の1年間の支出の約3割の費用がかかったので、お金の面でも幕府に反抗できるだけの力はなくなりました。

(4) 児童生徒のつまずきの状況

ア 解答類型に基づく分析

【小学校算数¹】(2) 3つの数のわり算について、わり算の性質が使えるかどうかを調べることができる】

しんじさんは、数が3つにふえたときのことについて考えています。

(2) 次のうち、 $12 \div 3 \div 0.5$ と商が同じになるものはどれですか。
 答えは①～④の中から1つ選び、その番号を書きましょう。

しんじ： $12 \div 3 \div 0.5$ のように3つの数のわり算でも、同じような性質を使って考えることができるのかな。

① $12 \div 3 \div 5$	17%
② $12 \div 30 \div 5$	13%
③ $120 \div 3 \div 5$	正答率 14%
④ $120 \div 30 \div 5$	55% (無解答率1%)

誤答④を選択した反応率は55%であり、「わられる数とわる数に同じ数をかけても（わっても）商は等しい。」という除法の性質から類推し、「3つの数すべてを10倍すればよい。」と予想した児童が半数以上いると考えられる。その際、自分の予想について、実際に計算して商が等しくなるかどうか確認した児童はごく一部であり、多くの児童は、計算して確認しないまま解答したと考えられる。

除法の計算の仕方について、除法の性質を基にして「式」「記号」「言葉」などを用いて、児童自身が説明できるようにすることが大切である。

学習指導に当たっては、例えば、本問題のような「3口の計算」の場合や、「整数」だけでなく「小数」「分数」の場合など、条件を変えて発展的に考える活動を取り入れることが考えられる。

また、本問題のように、既習の性質から類推し予想する活動を取り入れる際は、児童が実際に計算して確かめるなど、粘り強く考えたり自己の学習を調整したりしながら、主体的に問題発見・解決を図ることができるようにすることが大切である。

イ 児童生徒の実解答に基づく分析

【中学校数学⁶】(2) 垂線を作図して、三角形の高さを表す線分を作図することができる】

(2) 下の図の△ABCで、辺BCを底辺としたときの高さを表す線分AHを、定規とコンパスを使って、作図によって求めなさい。ただし、解答は解答用紙にかき、作図に使った線は消さずに残しておきなさい。

正答率 48%
(無解答率19%)

(正答例)

誤答①

誤答②

誤答③

誤答④

誤答⑤

抽出解答に見られた主な誤答は5つである。

- ①はAHではなくBHを高さと示している誤解
- ②は点Aを別の場所に示している誤解
- ③は学習した作図で一番頻度の高いもの（角の二等分線に作図）をそのまま利用した誤解
- ④は三角形の高さの意味が分かっていない誤解
- ⑤はAHの位置はよいが根拠となる作図がない（結果のみ）誤解

5つのうち、コンパスを利用していない解答が3つあることも注目すべきところである。三角形の高さ（小5の学習内容）や、なぜそうなるのかという作図の根拠等の意味理解が不十分のまま、作図の方法（技能）が中心となる学習が要因の一つではないかと考えられる。

調査結果について、上記ア・イのような視点から児童生徒のつまずきを分析し、克服していくことはもちろん、それに限らず、日々の授業全体について、児童生徒の発言や記述などに注目し、改善していくことが重要である。

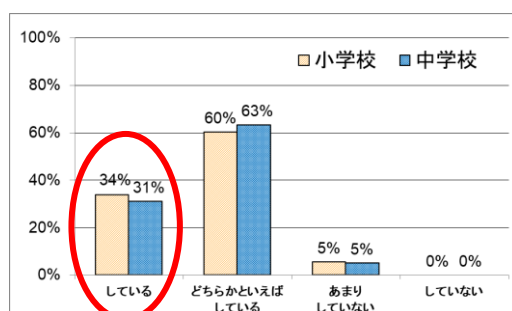
また、各学校において、このような視点に基づいて分析する意識をより一層高めることができるよう、研修や訪問指導等を通じて働きかけていく必要がある。

4 質問紙調査結果の分析

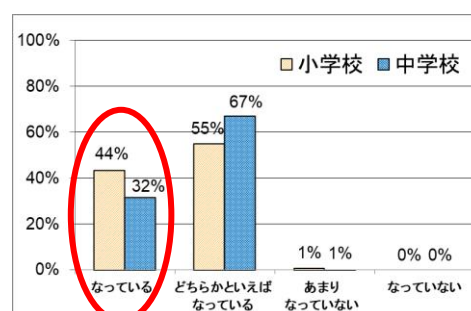
(1) 「新たに注視する5項目」について

これまで県として推進してきた「諸調査結果を活用した『学校の組織的な対応の強化』」について、今年度から「いわて県民計画（2019～2028）」第1期アクションプランに掲げる指標との関連を踏まえ、学校質問紙の中の新たな5つの設問に注目し、分析することとした。

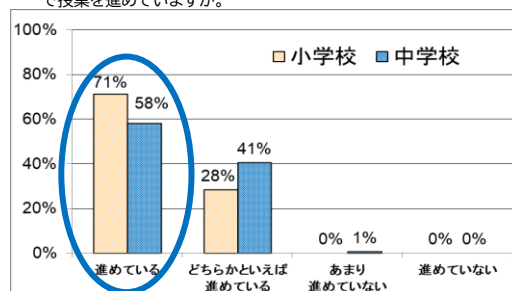
① 児童生徒が自分で調べたことや考えたことを、分かりやすく文章に書く指導をしていますか。



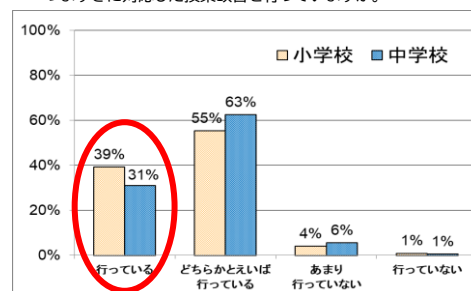
② (振り返る活動について)児童生徒自身が、学習の成果(又は課題)を実感できる振り返りとなっていますか。



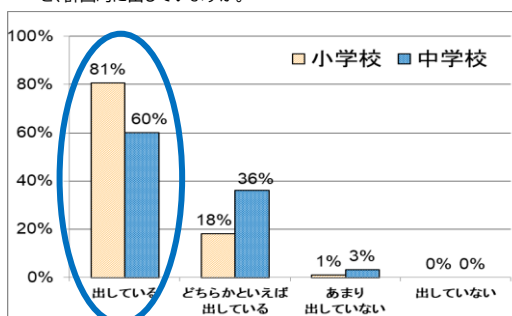
③ 児童生徒の間違いを認める雰囲気を作り、その中で授業を進めていますか。



④ 諸調査の自校の分析結果から見えた児童生徒のつまずきに対応した授業改善を行っていますか。



⑤ 授業内容の理解を促進する家庭学習の課題(宿題)を、計画的に出していますか。



すべての項目において、「している」「なっている」などの各質問の1番の回答(「積極肯定」)の割合を注視しています。

学校全体で組織的に学力向上に取り組むに当たり、本調査の各学校の分析結果については、「積極肯定」に注目して、今後の指導に生かしていく必要がある。

上記の結果から、特に家庭学習への取組については、各学校において、児童生徒が週毎や月毎で計画を立てて取り組む実践や、学校区ごとの小中連携の取組の実践も成果として表れていると考えられる。(各学校の「確かな学び、豊かな学び実現プラン」の記述内容より)

一方、「調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書く」「児童生徒が実感できる振り返り」「つまずきに対応した授業改善」については、小・中学校ともに積極肯定の割合が低い。今後も、組織的かつ継続的な実践を働きかけていく必要がある。

また、日常の授業において、よい点や進歩の状況など個々の状況を積極的に評価し、児童生徒に学習したことの意義や価値を実感させることが重要である。そのためには、普段から間違いが認められ、活かされ、児童生徒がより積極的に学習に取り組める雰囲気作りを進めていくことが必要である。

(2) 学校の取組の更なる焦点化について（意識調査の分析より）

ア 調査分析・活用のあり方

【学校質問紙調査:25】

全国学調、県学調について、具体的にどのような目標を設定して計画的に取り組みましたか。
【複数回答】

学年	年	教科調査の正答率と県平均の差	教科調査の正答率	教科調査の無解答率と県平均の差	教科調査の無解答率	児童生徒質問紙の項目	同一集団の経年比較
小学5年	R1	79	65	24	40	56	28
中学2年	R1	85	58	23	29	61	37

同一集団の経年比較があまり行われていない実態がある。前年度（異集団）との比較による分析で傾向を判断している学校もあると考えられる。

【学校質問紙調査:28】

教科調査の結果分析の際、何をを用いて行っていますか。【複数回答】

学年	年	教科全体の正答率	問題ごとの正答率	分布状況	誤答の反応率	児童生徒の記述内容（実解答）
小学5年	R1	78	97	51	37	44
中学2年	R1	84	90	57	27	30

特に中学校は、実解答の分析や誤答の反応率（解答類型の分析）等の分析が行われていない状況であり、今後、継続的に促進していくことが必要である。

【学校質問紙調査:27】

全国学調の問題（一部を含む）を全教員で解いて、出題の趣旨を分析し共通理解する時間を設定しましたか。

学年	年	設定し、実施した	設定し、年度中に実施予定である	設定していない
小学5年	R1	63	33	4
中学2年	R1	34	51	15

また、全国学調（4月実施）の問題の趣旨の分析、共通理解が、小学校で33%、中学校で51%が行われていない状況があり、学校の実態を踏まえて働きかけていく必要がある。

イ 授業研究のあり方

【学校質問紙調査:35】

校内の授業研究では、児童生徒の発言やノートの記述などに注目し、児童生徒が「何ができるようになったか」という視点で議論を行っていますか。

学年	年	積極的に 行っている	どちらかといえば 行っている	あまり 行っていない	行っていない
小学5年	R1	39	52	8	0
		91	8		
中学2年	R1	17	56	26	1
		73	27		

【学校質問紙調査:7】

学習の流れや児童生徒の実態に応じて、考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問を意図的・計画的に行っていますか。

学年	年	積極的に 行っている	どちらかといえば 行っている	あまり 行っていない	行っていない
小学5年	H30	41	58	1	0
	R1	41	56	2	1
		99	97	3	
		97	3		
中学2年	H30	33	67	0	0
	R1	32	66	1	0
		98	1		

【学校質問紙調査:6】

児童生徒がわからなかったところや理解していないところを明らかにさせ、解決して(させて)いますか。

学年	年	積極的に 行っている	どちらかといえば 行っている	あまり 行っていない	行っていない
小学5年	R1	50	49	1	0
		99	1		
中学2年	R1	29	68	2	0
		97	2		

【学校質問紙調査:8】

児童生徒の応答に切り戻したり、ある児童生徒の応答を受けて他の児童生徒に発問するなど、学級全体が問題解決に向かうように発言をつないでいますか。

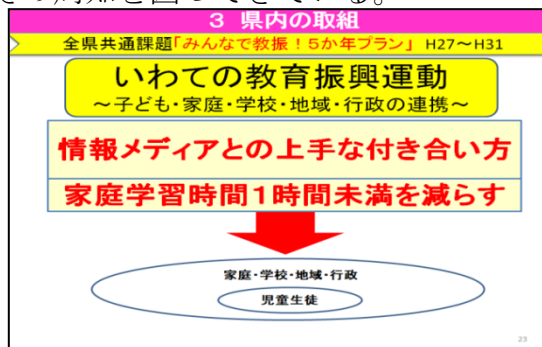
学年	年	積極的に 行っている	どちらかといえば 行っている	あまり 行っていない	行っていない
小学5年	R1	43	54	3	0
		97	3		
中学2年	R1	26	67	7	0
		93	7		

※整数値で表示することから、合計が100にならない場合があります。

校内の授業研究について、小・中学校ともに上記の4つの項目の積極肯定の割合が低く、児童生徒一人一人の学びの姿について議論が十分に行われていない実態がある。授業の展開についても、児童生徒一人一人の把握ができていないところを明らかにしていくことや、教師の発問とそれに対する児童生徒の反応等を十分に吟味しながら、各学校が自信をもって積極的に取組が行われるように今まで以上に授業づくりを進めていく必要がある。

ウ 家庭学習のあり方

家庭学習については、昨年度より各教育事務所で開催している「地域とともにある学校づくり推進フォーラム」を通じて、県としての家庭学習の取組について、その周知を図ってきている。



(ア) 家庭学習の内容

【学校質問紙調査:20】

家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えていますか。

学年	年	積極的に 行っている	どちらかといえば 行っている	あまり 行っていない	行っていない
小学5年	H30	18	59	22	1
	R1	14	58	27	1
		77	72	23	
		72	23		
中学2年	H30	6	50	40	4
	R1	8	41	48	3
		49	51		

【学校質問紙調査:21】

各教科において、学年をまたいで単元・領域の系統性を生かした問題等に、年間を通じて計画的・継続的に取り組ませていますか。

学年	年	積極的に 取り組ませている	どちらかといえば 取り組ませている	あまり 取り組ませている	取り組ませない
小学5年	R1	16	47	36	1
		63	37		
中学2年	R1	17	40	42	1
		57	43		

家庭学習については、自分で調べて記述することや学年をまたいだ内容への取組は、積極的に行われていないことがわかる。対象学年全員に対して統一した課題や全員ができてほしい課題（基礎・基本内容）を与えていることが考えられる。

諸調査の問題の趣旨や調査結果，児童生徒の実態を踏まえて，事柄・方法・根拠等を記述するような課題や学年の内容のつまずきを生かした課題の克服に焦点化して取り組むことも大切である。授業改善と同時に家庭学習のあり方についても，研修や訪問指導等で見直しを促していく必要がある。

(イ) 家庭学習の時間

家庭学習2時間以上の児童生徒の割合は，特に中学校が4ポイント減少しており，引き続き改善に取り組むべき課題と捉えている。

一方で，中学校において，「自分で計画を立てて取り組む」生徒が増えていることから，各学校において，より自主的な家庭学習の取組が進められていると推測する。

家庭における生活状況が多様化する中，児童生徒の学校における学びを確実に定着させるためには，家庭学習の充実が不可欠であることから，今後も，家庭や地域との連携を強化し，取組の推進を働きかけていく。

【児童生徒質問紙調査：9】

学校の授業以外で、平日にどれくらいの時間、勉強しますか。

学年	年	3時間以上	2時間以上 3時間より少ない	1時間以上 2時間より少ない	30分以上 1時間より少ない	30分より少ない	全くしない
小学5年	H30	5	12	53	25	4	2
	R1	5	13	51	25	4	1
中学2年	H30	3	19	48	22	6	2
	R1	3	15	56	19	6	1

【児童生徒質問紙調査：10】

家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。

学年	年	している	どちらかといえ ばしている	どちらかといえ ばしていない	していない
小学5年	H30	27	39	21	13
	R1	29	39	20	12
中学2年	H30	13	34	31	22
	R1	17	41	26	16

家庭学習の結果から，児童生徒のつまずきを把握し，授業に反映させることにより，授業改善の方策の一つとすることができる。そのためには，家庭学習の内容はもちろん，取り組ませ方や，その分量や点検方法等について，学校全体で共通理解を図り，児童生徒が自主的に行った家庭学習に対する評価を大切にすることが必要である。

(3) 学校の取組と児童生徒の受け止めについて（授業の振り返りを例に）

【学校質問紙調査：2】

授業で行う振り返りは，児童生徒自身が学習の成果(又は課題)を実感できる振り返りとなっていますか。

学年	年	なっている	どちらかといえ ばなっている	あまり なっていない	なっていない
小学5年	R1	44	55	1	0
		99		1	
中学2年	R1	32	67	1	0
		99		1	

【児童生徒質問紙調査：26】

あなたは授業の中の振り返る活動で，その時間の学習内容で何が大切だったかがわかったと感じていますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない
小学5年	R1	47	44	7	2
		91		9	
中学2年	R1	35	52	11	2
		87		13	

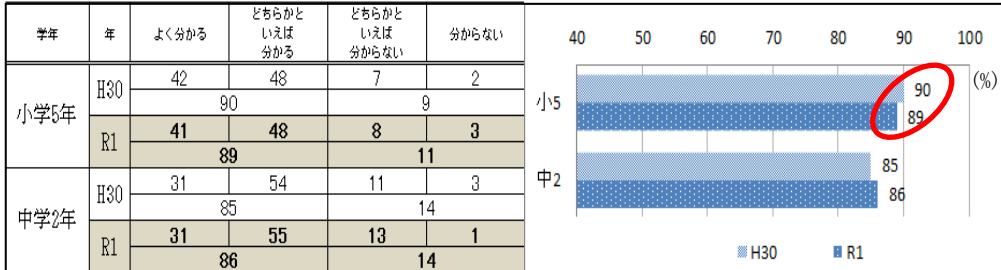
学校質問紙の結果から，「振り返りをを行っている」についての指導者側の意識と児童生徒側の意識にズレがあることがわかる。振り返りの「内容・質」については，今後，児童生徒が学習の「成果や課題」を実感できる振り返りとなるように改善を進めていく必要がある。

(4) 学習内容の理解と興味・関心について

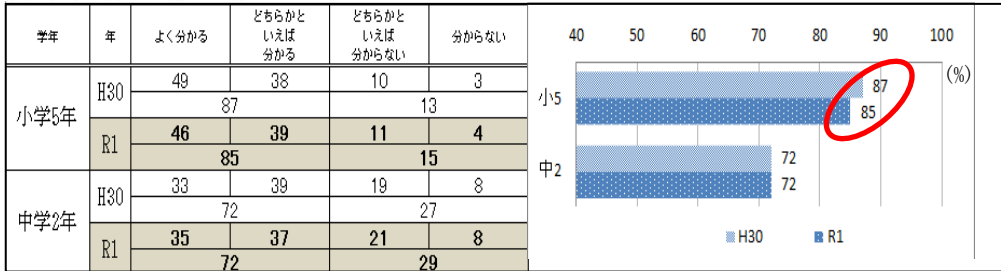
児童生徒質問紙調査から、教科調査を実施した4教科についての学習内容の理解や興味・関心について分析した。

ア 学習内容の理解について

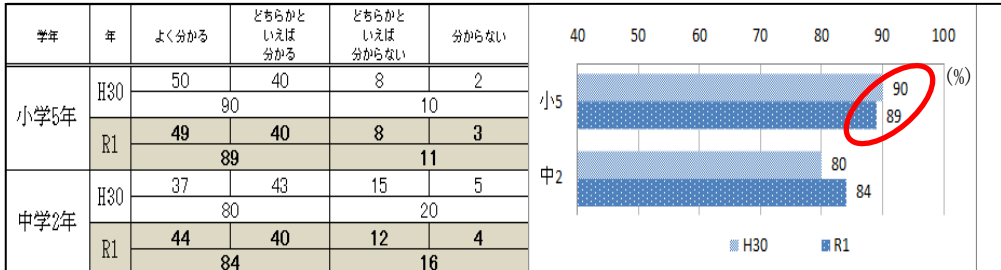
国語の授業の内容はよく分かりますか。



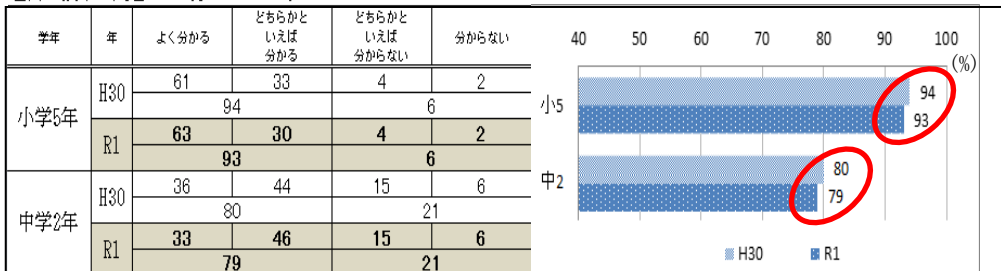
算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。



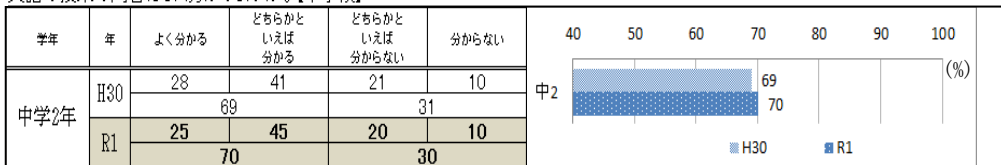
社会の授業の内容はよく分かりますか。



理科の授業の内容はよく分かりますか。



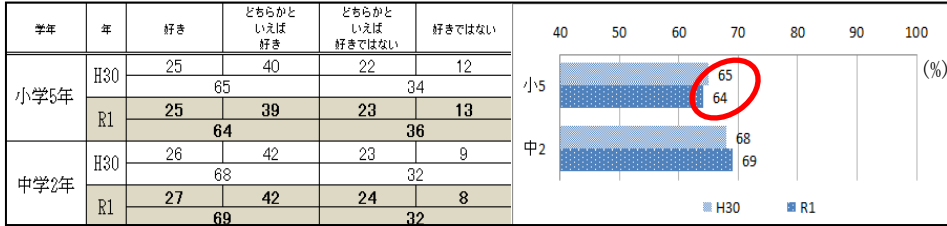
英語の授業の内容はよく分かりますか。【中学校】



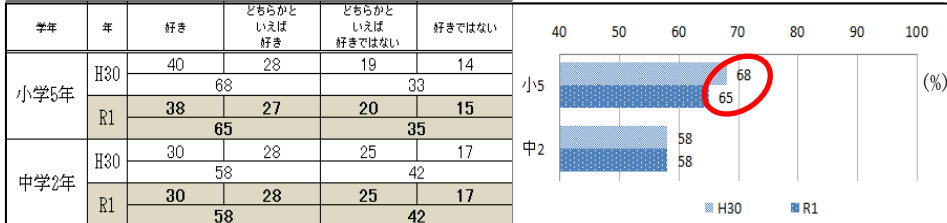
「授業が分かる」に関する状況は、小学校算数について、肯定的回答が2ポイント減少している。その他の教科では、昨年度の調査対象学年と大きな差はない。

イ 学習への興味・関心について

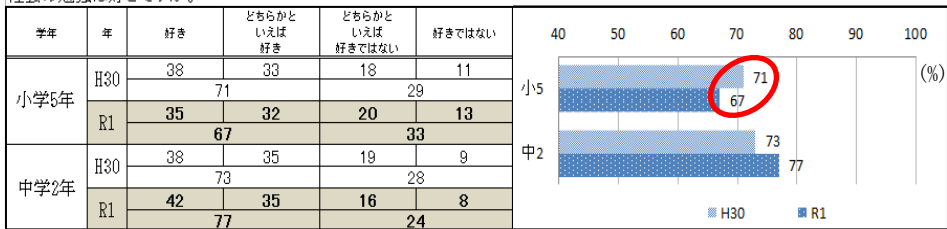
国語の勉強は好きですか。



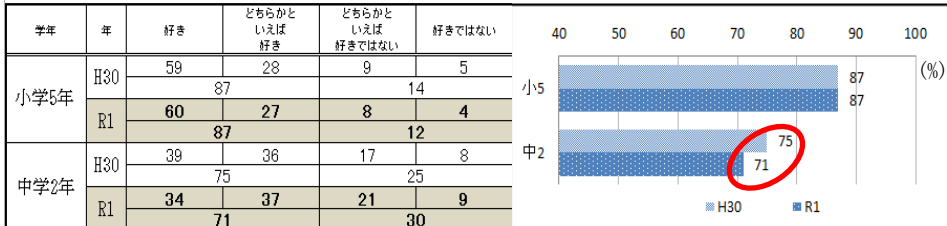
算数・数学の勉強は好きですか。



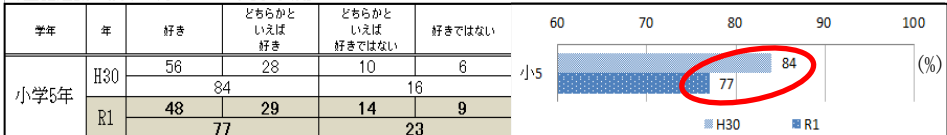
社会の勉強は好きですか。



理科の勉強は好きですか。



外国語活動の授業は好きですか。【小学校】



英語の勉強は好きですか。【中学校】



将来、どの程度まで英語を身に付けたいと思っていますか。【中学校】



「勉強が好き」に関する状況は、肯定的回答が2ポイント以上減少した教科が6教科となっており、今年度の調査対象学年の傾向として、教科の学習への興味・関心が、昨年度の調査対象学年と比較すると低いことが分かる。

上記のア・イから、「授業の内容は分かるが、教科の学習への興味・関心を高める授業になっていない」ことが推測される。新学習指導要領でも示される「主体的な学び」の実現には、学習への興味・関心が不可欠であり、これからの授業改善の大切な視点として注視していく必要がある。

(5) 児童生徒の自己肯定感について

【児童生徒質問紙:2(前年度集団との比較)】

自分にはよいところがあると思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
小学5年	H30	33	45	14	7
	R1	29	47	16	8
中学2年	H30	27	47	17	8
	R1	18	47	24	11

【児童生徒質問紙:2(同一集団経年比較)】

自分にはよいところがあると思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
小学5年	H28	31	46	15	7
	H29	35	41	16	8
小学6年	H28	35	41	16	8
	H29	35	41	16	8
中学1年	H30	25	47	18	10
	H30	25	47	18	10
中学2年	H30	25	47	18	10
	R1	18	47	24	11

【学校質問紙:5】

学習活動において、児童生徒一人ひとりのよい可能性を見つけて評価(褒めるなど)する取組を行っていますか。

学年	年	積極的に 行っている	どちらかといえば 行っている	あまり 行っていない	行っていない
小学5年	R1	70	29	1	0
	R1	99	1	1	0
中学2年	R1	53	46	1	0
	R1	99	1	1	0

【児童生徒質問紙:19(前年度集団との比較)】

先生やまわりの人は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかとい えば そう思う	どちらかとい えば そう思わない	そう思わない
小学5年	H30	36	44	13	5
	R1	36	43	14	7
中学2年	H30	36	46	13	5
	R1	28	51	14	7

「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に対して、昨年度調査対象学年と比較すると、小5、中2ともに肯定回答の割合が減少する結果となった。

特に、中2については、H28年県学調、H29年全国学調、H30年新入生学調(中1)の生徒質問紙より同一集団の経年比較をしても年々減少していることがわかる。

児童生徒が学校生活の様々な場面で、他者から認められる経験を通して、自己の成長を実感できるよう、全ての教育活動において、児童生徒を褒める場面を増やしなが、いかに成長したかを積極的に受け止め、認め、励ます評価を行っていくことが大切である。

5 調査結果の活用と今後の取組

各学校においては、意識調査と教科調査の結果を分析し、学校の取組状況の課題を明らかにしていくことが大切である。

その際、解答類型や児童生徒の実解答(記述)に注目し、一人一人のつまずきの要因を把握することが重要である。

さらに、日々の授業で同様のつまずきが予想されることを想定し、児童生徒の発言や記述そのものに着目しながら、つまずいている点を明らかにし、克服しながら、集団全体の理解を深めていくよう改善することが求められる。

各市町村教育委員会においては、各学校が調査結果から見られた課題等を次年度の指導計画へ確実に反映させ、教育活動全体の改善に積極的に取り組むよう、より一層の支援が大切である。

また、県教育委員会としては、今後、以下の点などについて取り組んでいく。

- ① 「いわての授業づくり3つの視点」を、主体的・対話的で深い学びの視点から改訂し、授業改善をより一層推進する。
- ② 各学校における調査結果の分析を活用したPDCAサイクルを基にした指導改善計画の作成及び実践について、各種研修会や訪問指導等を通じて、継続的な支援を強化する。
- ③ 「諸調査結果を効果的に活用して組織的に対応している学校の実践事例」の普及・拡大に継続して取り組む。
- ④ 算数・数学において、様々な研修会や指導主事による訪問指導の改善・充実を図り、各学校における調査問題や分析結果を活用した指導と評価の一体化を一層推進する。
【取組例：中学校数学教員研修会、参考資料「いわて五ツ星の授業づくり」「(家庭学習のための)中学校数学GアップシートEX」の活用促進、指導主事による訪問指導等】
- ⑤ 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す新学習指導要領の趣旨を踏まえ、本調査問題の見直し及び検討を行う。

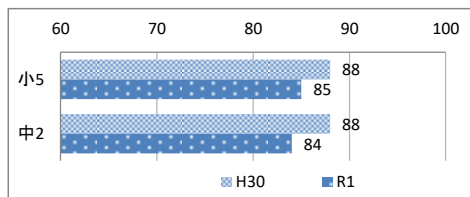
○児童生徒質問紙調査項目結果一覧

参考資料

※小学5年には義務教育学校第5学年、中学2年には義務教育学校第8学年が含まれます。

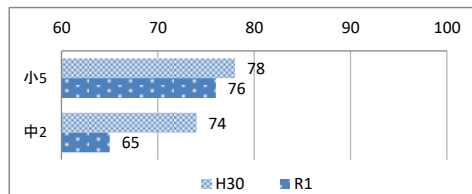
学校に行くのは楽しいと思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
小学5年	H30	51	37	8	3
	R1	50	35	10	5
中学2年	H30	51	37	8	4
	R1	42	42	9	7



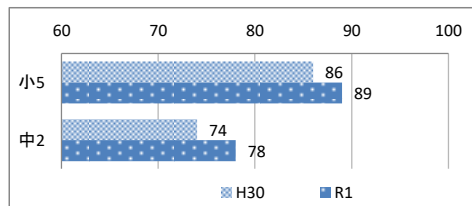
自分にはよいところがあると思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
小学5年	H30	33	45	14	7
	R1	29	47	16	8
中学2年	H30	27	47	17	8
	R1	18	47	24	11



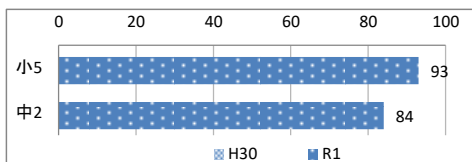
あなたは将来の夢や目標をもっていますか。

学年	年	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
小学5年	H30	68	18	6	5
	R1	69	20	7	4
中学2年	H30	44	30	16	10
	R1	46	32	14	8



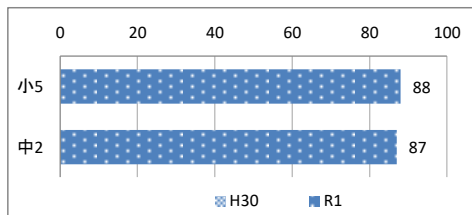
授業中、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
小学5年	R1	32	50	15	4
	H30	93	5		
中学2年	R1	25	59	13	3
	H30	84	16		



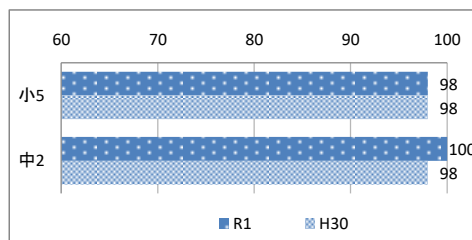
新聞、テレビ、インターネットなどでニュースを見ますか。

学年	年	ほぼ毎日 読んでいる	週に1~3回 程度読んでいる	どちらかといえば 見ない	ほとんどまたは 全く見ない
小学5年	H30				
	R1	61	27	7	5
中学2年	H30				
	R1	64	23	10	3



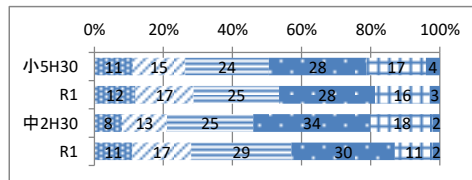
携帯電話やスマートフォンを使う時は、安全に正しく使うことが大切だと思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
小学5年	H30	89	9	1	1
	R1	90	8	1	1
中学2年	H30	85	13	1	1
	R1	84	16	0	0



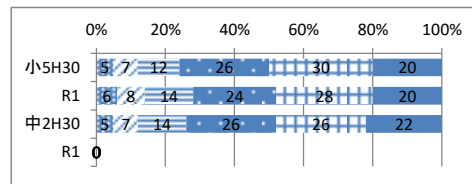
平日にどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを観ますか。

学年	年	4時間以上	3時間以上 4時間より 少ない	2時間以上 3時間より 少ない	1時間以上 2時間より 少ない	1時間より 少ない	全く観ない
小学5年	H30	11	15	24	28	17	4
	R1	12	17	25	28	16	3
中学2年	H30	8	13	25	34	18	2
	R1	11	17	29	30	11	2



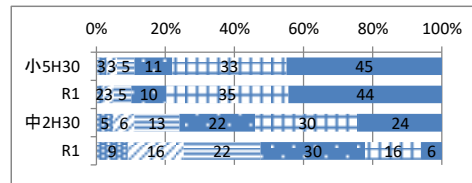
平日にどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。

学年	年	4時間以上	3時間以上 4時間より 少ない	2時間以上 3時間より 少ない	1時間以上 2時間より 少ない	1時間より 少ない	全くしない
小学5年	H30	5	7	12	26	30	20
	R1	6	8	14	24	28	20
中学2年	H30	5	7	14	26	26	22
	R1						



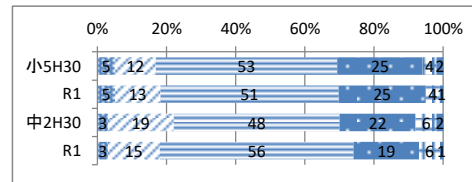
平日にどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで電話やメール、インターネットをしますか。
(中学校はゲームを含む)

学年	年	4時間以上	3時間以上 4時間より 少ない	2時間以上 3時間より 少ない	1時間以上 2時間より 少ない	1時間より 少ない	持っていない 全くしない
小学5年	H30	3	3	5	11	33	45
	R1	2	3	5	10	35	44
中学2年	H30	5	6	13	22	30	24
	R1	9	16	22	30	16	6



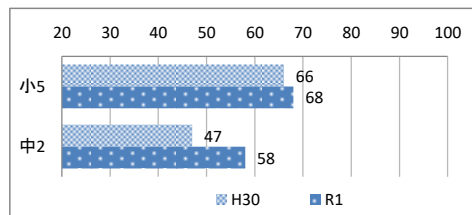
学校の授業以外で、平日にどれくらいの時間、勉強しますか。

学年	年	3時間以上	2時間以上 3時間より 少ない	1時間以上 2時間より 少ない	30分以上 1時間より 少ない	30分より 少ない	全くしない
小学5年	H30	5	12	53	25	4	2
	R1	5	13	51	25	4	1
中学2年	H30	3	19	48	22	6	2
	R1	3	15	56	19	6	1



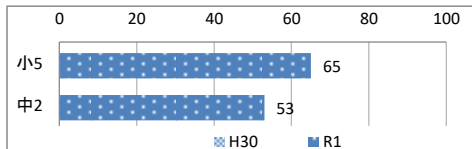
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。

学年	年	している	どちらかといえ ばしている	どちらかといえ ばしていない	していない
小学5年	H30	27	39	21	13
	R1	29	39	20	12
中学2年	H30	13	34	31	22
	R1	17	41	26	16



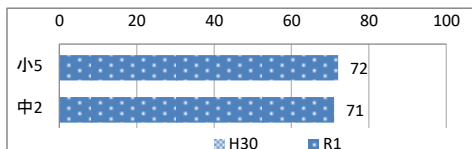
学校の宿題に加え、弱点を克服する学習に取り組んだり、発展的な問題に取り組んだりしていますか。

学年	年	当てはまる	どちらかといえ ば当てはまる	どちらかといえ ば当てはまらない	当てはまらない
小学5年	R1	22	43	25	10
		65	35		
中学2年	R1	13	40	33	14
		53	47		



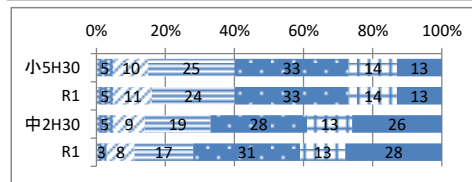
学校で行う鑑賞教室などを通じて、様々な芸術文化に触れ、興味がわきましたか。

学年	年	当てはまる	どちらかといえ ば当てはまる	どちらかといえ ば当てはまらない	当てはまらない
小学5年	R1	34	38	17	10
		72	27		
中学2年	R1	30	41	21	8
		71	29		



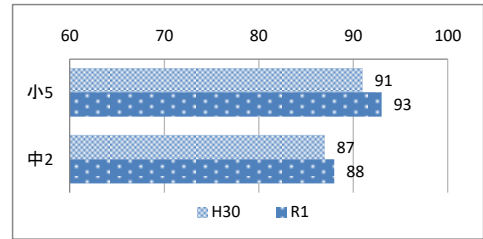
学校の授業以外で1日にどれくらいの時間、読書を読みますか。

学年	年	2時間以上	1時間以上 2時間より 少ない	30分以上 1時間より 少ない	10分以上 30分より 少ない	10分より 少ない	全くしない
小学5年	H30	5	10	25	33	14	13
	R1	5	11	24	33	14	13
中学2年	H30	5	9	19	28	13	26
	R1	3	8	17	31	13	28



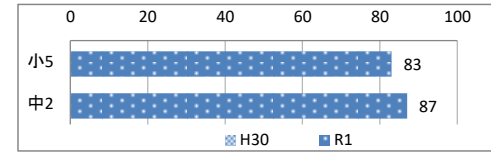
自分の住む地域には、良いところがあると思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
小学5年	H30	66	25	5	4
	R1	69	24	5	3
中学2年	H30	52	35	9	4
	R1	59	29	8	4



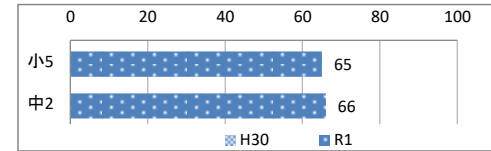
学校や地域で行う体験活動に、今後も継続して参加したいと思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
小学5年	R1	47	36	12	5
		83		17	
中学2年	R1	48	39	9	4
		87		13	



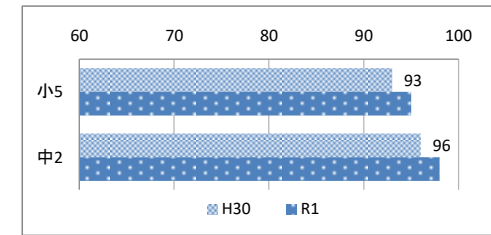
自分の住む地域や社会をよりよくするために何をすべきか考えることがありますか。

学年	年	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
小学5年	R1	24	41	25	10
		65		35	
中学2年	R1	22	44	23	10
		66		33	



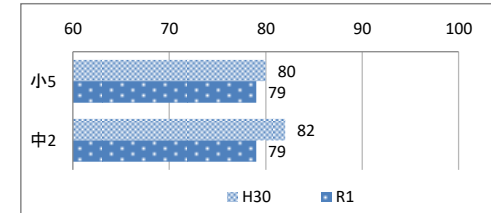
人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
小学5年	H30	71	22	3	2
	R1	76	19	3	2
中学2年	H30	79	17	2	1
	R1	80	18	2	0



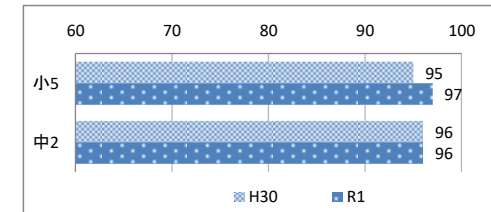
先生やまわりの人は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
小学5年	H30	36	44	13	5
	R1	36	43	14	7
中学2年	H30	36	46	13	5
	R1	28	51	14	7



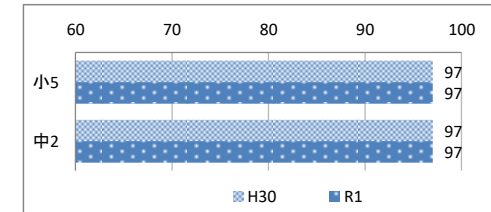
人が困っているときは、進んで助けようと思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
小学5年	H30	66	29	3	1
	R1	69	28	3	1
中学2年	H30	64	32	3	1
	R1	65	31	3	1



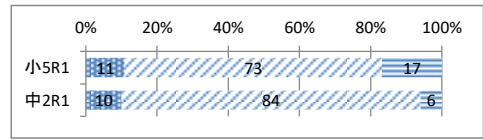
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
小学5年	H30	83	14	2	1
	R1	85	12	2	1
中学2年	H30	81	16	2	1
	R1	79	18	2	1



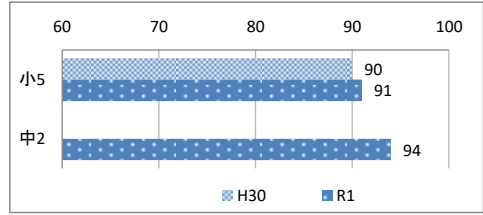
悩みなど困ったときに相談する、学校以外の相談窓口があることを知っていますか。

学年	年	連絡先まで知っている	あることは知っている	知らない	新
小学5年	R1	11	73	17	
中学2年	R1	10	84	6	



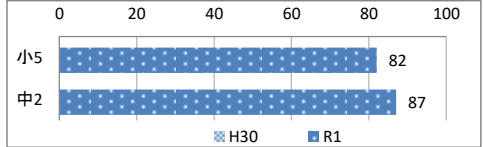
道徳の授業の中で、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする学習活動に取り組んでいますか。

学年	年	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
小学5年	H30	51	39	7	2
	R1	54	37	7	2
中学2年	H30	91	9		
	R1	63	31	5	1
		94		6	



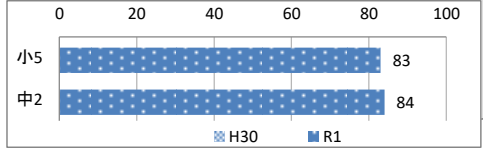
友だちと話し合うとき、自分の考えを相手にきちんと伝えながら、少数の意見にも耳を傾け、意見をまとめていると思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	新
小学5年	R1	31	51	14	3	
		82		17		
中学2年	R1	38	49	11	2	
		87		13		



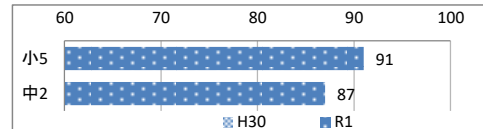
学級は、お互いに助け合ったり、お互いのよさを認め合ったりできている学級だと思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	新
小学5年	R1	45	38	12	4	
		83		16		
中学2年	R1	46	38	12	4	
		84		16		



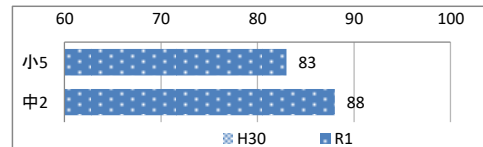
あなたは授業中の振り返る活動で、その時間の学習内容で何が大切だったかがわかったと感じていますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	新
小学5年	R1	47	44	7	2	
		91		9		
中学2年	R1	35	52	11	2	
		87		13		



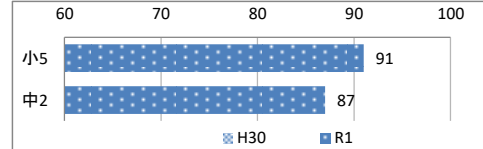
学級には、授業中の先生からの質問や、教科書の問題の答えなどについて、間違っても認め合える雰囲気がありますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	新
小学5年	R1	43	40	12	4	
		83		16		
中学2年	R1	44	44	9	8	
		88		17		



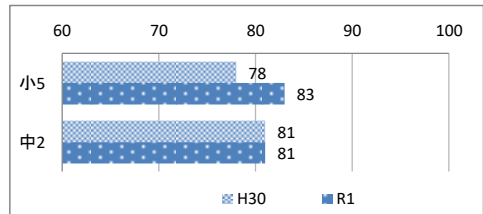
先生は、授業で分からなかったところや、理解していないところについて分かるまで教えてくださいますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	新
小学5年	R1	64	27	6	3	
		91		9		
中学2年	R1	47	40	9	3	
		87		12		



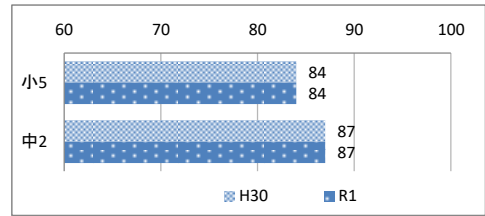
あなたは、授業で分からなかったところなどや理解していないところについて、自分で調べたり、先生や友だちに聞いたりして、解決していますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
小学5年	H30	35	43	15	6
	R1	41	42	12	5
		78		21	
中学2年	H30	36	45	13	5
	R1	37	44	14	5
		81		18	
		81		19	



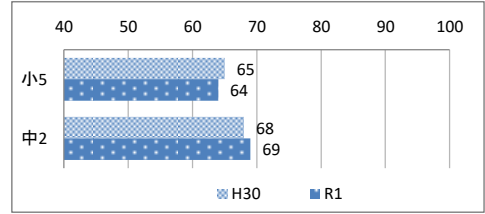
授業では、学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
小学5年	H30	42	42	12	4
	R1	40	44	12	4
中学2年	H30	46	41	10	3
	R1	44	43	11	2
		84	16	13	87



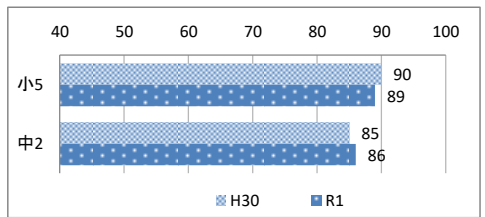
国語の勉強は好きですか。

学年	年	好き	どちらかといえば 好き	どちらかといえば 好きではない	好きではない
小学5年	H30	25	40	22	12
	R1	25	39	23	13
中学2年	H30	26	42	23	9
	R1	27	42	24	8
		65	34	36	69



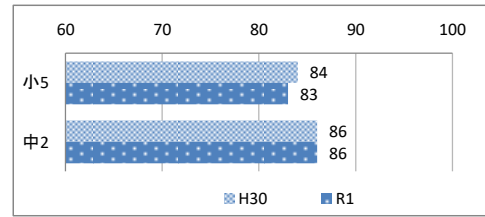
国語の授業の内容はよく分かりますか。

学年	年	よく分かる	どちらかといえば 分かる	どちらかといえば 分からない	分からない
小学5年	H30	42	48	7	2
	R1	41	48	8	3
中学2年	H30	31	54	11	3
	R1	31	55	13	1
		89	11	14	86



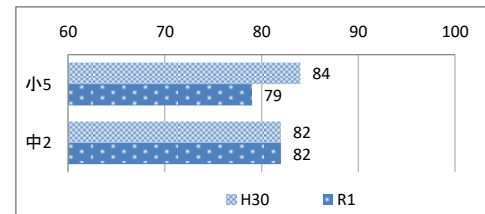
国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、考えの理由が分かるように気を付けていますか。

学年	年	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
小学5年	H30	39	45	13	3
	R1	37	46	14	4
中学2年	H30	39	47	11	3
	R1	35	51	13	2
		83	18	14	86



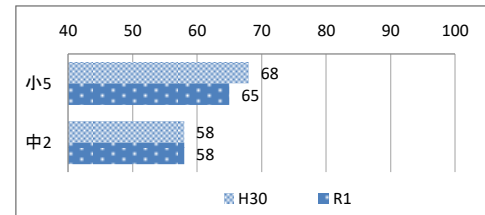
国語の授業で文章を読むとき、目的を意識して、必要な情報を見つけながら読んでいますか。

学年	年	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
小学5年	H30	40	44	12	3
	R1	34	45	16	5
中学2年	H30	35	47	14	4
	R1	35	47	15	2
		79	21	18	82



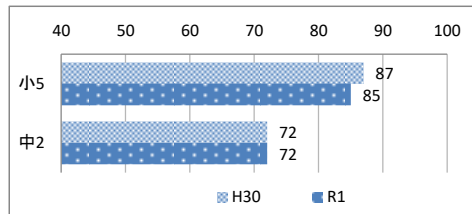
算数・数学の勉強は好きですか。

学年	年	好き	どちらかといえば 好き	どちらかといえば 好きではない	好きではない
小学5年	H30	40	28	19	14
	R1	38	27	20	15
中学2年	H30	30	28	25	17
	R1	30	28	25	17
		65	35	42	58



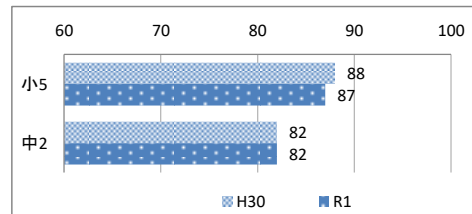
算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。

学年	年	よく分かる	どちらかといえば分かる	どちらかといえば分からない	分からない
小学5年	H30	49	38	10	3
	R1	46	39	11	4
中学2年	H30	33	39	19	8
	R1	35	37	21	8



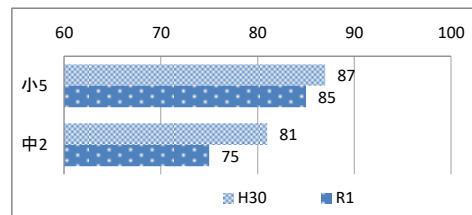
算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか。

学年	年	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
小学5年	H30	51	37	9	3
	R1	49	38	11	3
中学2年	H30	40	42	13	5
	R1	37	45	14	4



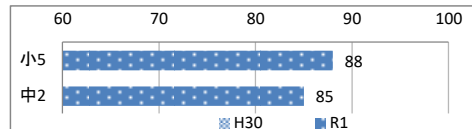
算数・数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えます

学年	年	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
小学5年	H30	53	34	10	2
	R1	50	35	11	3
中学2年	H30	41	40	15	4
	R1	36	39	20	5



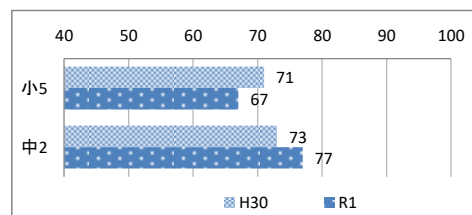
算数・数学の授業で、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。

学年	年	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
小学5年	H30	58	30	9	3
	R1	58	30	9	3
中学2年	H30	48	37	9	6
	R1	48	37	9	6



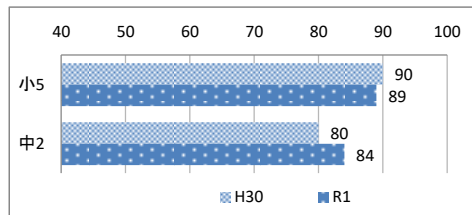
社会の勉強は好きですか。

学年	年	好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば好きではない	好きではない
小学5年	H30	38	33	18	11
	R1	35	32	20	13
中学2年	H30	38	35	19	9
	R1	42	35	16	8



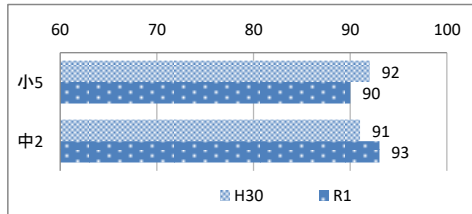
社会の授業の内容はよく分かりますか。

学年	年	よく分かる	どちらかといえば分かる	どちらかといえば分からない	分からない
小学5年	H30	50	40	8	2
	R1	49	40	8	3
中学2年	H30	37	43	15	5
	R1	44	40	12	4



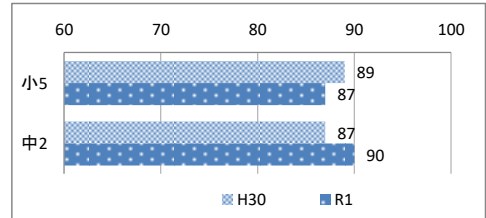
社会の授業で学習問題(学習課題)を解決するとき、資料から関係のあることを読み取る活動を行っていると思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
小学5年	H30	57	35	7	2
	R1	55	35	8	2
中学2年	H30	56	35	7	2
	R1	59	34	6	1



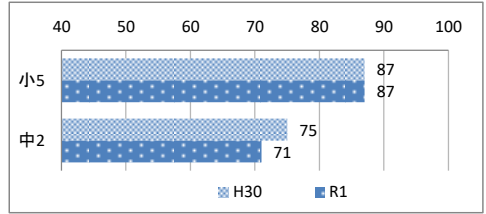
社会の授業で、資料から読み取ったことなどをもとに、学習問題(学習課題)について考える活動を行っていると思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
小学5年	H30	48	41	9	2
	R1	45	42	10	3
中学2年	H30	47	40	10	3
	R1	54	36	8	1
		87	13	90	9



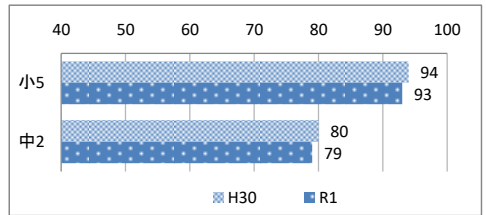
理科の勉強は好きですか。

学年	年	好き	どちらかといえば 好き	どちらかといえば 好きではない	好きではない
小学5年	H30	59	28	9	5
	R1	60	27	8	4
中学2年	H30	39	36	17	8
	R1	34	37	21	9
		87	12	71	30



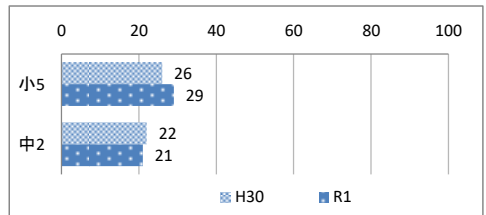
理科の授業の内容はよく分かりますか。

学年	年	よく分かる	どちらかといえば 分かる	どちらかといえば 分からない	分からない
小学5年	H30	61	33	4	2
	R1	63	30	4	2
中学2年	H30	36	44	15	6
	R1	33	46	15	6
		94	6	79	21



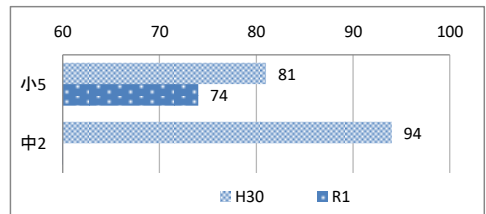
将来、理科や科学技術に関する職業に就(つ)きたいと思いますか。

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
小学5年	H30	11	15	29	46
	R1	14	15	29	42
中学2年	H30	9	13	29	49
	R1	8	13	32	46
		29	71	78	21



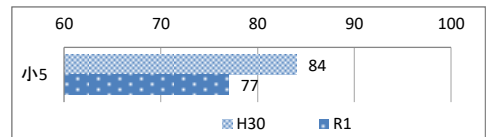
理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか。

学年	年	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
小学5年	H30	23	58	15	3
	R1	37	37	17	9
中学2年	H30	47	47	4	1
	R1	19	35	31	14
		74	26	54	45



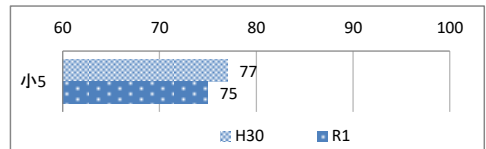
外国語活動の授業は好きですか。【小学校】

学年	年	好き	どちらかといえば 好き	どちらかといえば 好きではない	好きではない
小学5年	H30	56	28	10	6
	R1	48	29	14	9
		77	23	84	16



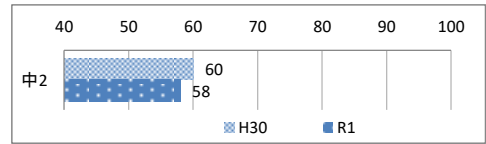
外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思っていますか。【小学校】

学年	年	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
小学5年	H30	51	26	13	10
	R1	48	27	14	12
		75	26	77	23



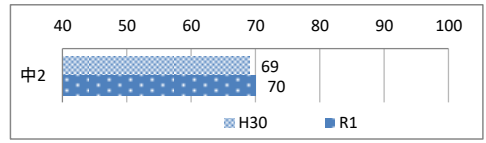
英語の勉強は好きですか。【中学校】

学年	年	好き	どちらかといえ ば好き	どちらかといえ ば好きではない	好きではない
中学2年	H30	28	32	25	15
	R1	25	33	26	16
		58	42		



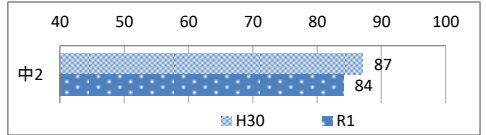
英語の授業の内容はよく分かりますか。【中学校】

学年	年	よく分かる	どちらかといえ ば分かる	どちらかといえ ば分からない	分からない
中学2年	H30	28	41	21	10
	R1	25	45	20	10
		69	70	31	30



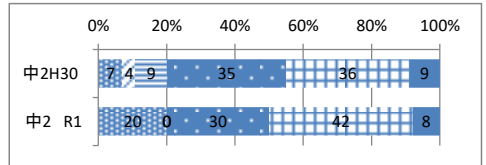
英語の授業で、まとまりのある英文を聞いたり読んだりして、文章全体の概要や要点をとらえる活動をしていると思いますか。【中学校】

学年	年	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない
中学2年	H30	47	40	9	4
	R1	42	42	12	4
		87	84	13	16



将来、どの程度まで英語を身に付けたいと思っていますか。【中学校】

学年	年	国際社会で活躍できる (自由に外国人と話せる)	海外の大学などに進学できる	高校・大学などで海外に短期留学できる	海外旅行でコミュニケーションを楽しめる	高校入試に対応できる	学校の授業以外での利用を考えていない
中学2年	H30	7	4	9	35	36	9
	R1	20			30	42	8



令和元年度岩手県小・中学校学習定着度状況調査 学校質問紙調査結果

2019/10/2時点で回答

2018/10/3時点で回答

R1の状況

H30の状況

	小学校	中学校
回答校数	310	158

	小学校	中学校
回答校数	314	158

※番号左の◎は「新たに注視する5項目(ネオファイブ)」※小学校に義務教育学校前期課程、中学校に同じく後期課程を含む
※小学校は項目1～24までは309校の回答、中学校は項目1～24までは157校の回答
(調査対象者がいない学校があるため)

【授業】 (学習調査対象学年)

- 1 児童生徒に示す目標(めあて・ねらい)は、児童生徒の実態や、その時間に扱う学習内容に適したものとなるよう、吟味して示していますか。

	小学校	中学校
1		
している	229	113
どちらかといえばしている	80	44
あまりしていない	0	0
していない	0	0

	小学校	中学校
1		
している	221	97
どちらかといえばしている	93	61
あまりしていない	0	0
していない	0	0

- ◎ 2 授業で行う振り返りは、児童生徒自身が学習の成果(又は課題)を実感できる振り返りとなっていますか。

	小学校	中学校
2		
なっている	135	50
どちらかといえばなっている	171	106
あまりなっていない	3	1
なっていない	0	0

	小学校	中学校
2		
なっている	119	35
どちらかといえばなっている	184	118
あまりなっていない	11	5
なっていない	0	0

- 3 本時の指導目標が達成できたかどうかを、教師が主にどのような手段で確認していますか。【複数回答】

	小学校	中学校
3		
児童生徒の自己評価や相互評価	241	143
評価問題	257	129
観察	251	126
ノートやワークシート	290	129
挙手や発言	239	101
その他	9	5

	小学校	中学校
R1年度の新規項目		

- 4 言語活動の充実に向けて、国語科だけではなく、各教科、道徳、(小学校外国語活動)、総合的な学習の時間及び特別活動などを通じて、学校全体として取り組んでいますか。

	小学校	中学校
4		
積極的に取り組んでいる	153	68
どちらかといえば取り組んでいる	152	85
あまり取り組んでいない	4	4
取り組んでいない	0	0

	小学校	中学校
4		
積極的に取り組んでいる	129	51
どちらかといえば取り組んでいる	183	104
あまり取り組んでいない	2	3
取り組んでいない	0	0

- 5 学習活動において、児童生徒一人ひとりのよい点や可能性を見つけて評価(褒めるなど)する取組を行っていますか。

	小学校	中学校
5		
積極的に行っている	217	83
どちらかといえば行っている	89	72
あまり行っていない	3	2
行っていない	0	0

	小学校	中学校
R1年度の新規項目		

- 6 児童生徒が分からなかったところや理解していないところを明らかにさせ、解決して(させて)いますか。

	小学校	中学校
6		
積極的に行っている	155	46
どちらかといえば行っている	152	108
あまり行っていない	2	3
行っていない	0	0

	小学校	中学校
R1年度の新規項目		

- 7 学習の流れや児童生徒の実態に応じて、考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問を意図的・計画的に行っていますか。

	小学校	中学校
7		
積極的に行っている	129	51
どちらかといえば行っている	173	104
あまり行っていない	6	2
行っていない	1	0

	小学校	中学校
7		
積極的に行っている	128	52
どちらかといえば行っている	181	106
あまり行っていない	5	0
行っていない	0	0

- 8 児童生徒の応答に切り返したり、ある児童生徒の応答を受けて他の児童生徒に発問するなど、学級全体が問題解決に向かうよう発言をつないでいますか。

	小学校	中学校
8		
積極的に行っている	134	41
どちらかといえば行っている	166	105
あまり行っていない	9	11
行っていない	0	0

	小学校	中学校
R1年度の新規項目		

- ◎ 9 児童生徒の間違いを認める雰囲気を作り、その中で授業を進めていますか。

	小学校	中学校
9		
進めている	221	92
どちらかといえば進めている	88	64
あまり進んでいない	0	1
進めていない	0	0

	小学校	中学校
9		
進めている	222	87
どちらかといえば進めている	92	69
あまり進んでいない	0	2
進めていない	0	0

- 10 学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をするなど)の指導を徹底していますか。

	小学校	中学校
10		
徹底している	143	78
どちらかといえば徹底している	159	74
あまり徹底していない	7	5
徹底していない	0	0

	小学校	中学校
10		
徹底している	191	84
どちらかといえば徹底している	122	73
あまり徹底していない	1	1
徹底していない	0	0

- 11 学習方法(自分の解き方や考え方がわかるようにノートをとることや、間違いを振り返って学習するなど)に関する指導をしていますか。

	小学校	中学校
11		
している	164	67
どちらかといえばしている	136	80
あましていない	9	10
していない	0	0

	小学校	中学校
11		
している	214	86
どちらかといえばしている	96	71
あましていない	4	1
していない	0	0

12 児童生徒に対して、根拠や理由を示しながら、自分の考えを説明できるように指導していますか。

12	小学校		中学校	
している	168	54.2%	64	40.5%
どちらかといえばしている	133	42.9%	87	55.1%
あましていない	8	2.6%	6	3.8%
していない	0	0.0%	0	0.0%

小学校		中学校	
177	56.4%	64	40.5%
135	43.0%	92	58.2%
2	0.6%	2	1.3%
0	0.0%	0	0.0%

◎ 13 児童生徒が自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書く指導をしていますか。

13	小学校		中学校	
している	105	33.9%	49	31.0%
どちらかといえばしている	187	60.3%	100	63.3%
あましていない	17	5.5%	8	5.1%
していない	0	0.0%	0	0.0%

小学校		中学校	
117	37.3%	41	25.9%
177	56.4%	103	65.2%
20	6.4%	14	8.9%
0	0.0%	0	0.0%

14 どの児童生徒も伸ばすことを意識して、発展的な学習の指導を行っていますか。

14	小学校		中学校	
行っている	47	15.2%	26	16.5%
どちらかといえば行っている	196	63.2%	96	60.8%
あまり行っていない	66	21.3%	35	22.2%
行っていない	0	0.0%	0	0.0%

小学校		中学校	
45	14.3%	14	8.9%
183	58.3%	104	65.8%
85	27.1%	40	25.3%
1	0.3%	0	0.0%

15 算数・数学の授業で、学習内容に応じて、チームティーチングによる指導を行っていますか。

15	小学校		中学校	
年間の授業のうち、およそ 3/4 以上で行った	68	21.9%	68	43.0%
年間の授業のうち、およそ 1/2 以上 3/4 未満で行った	42	13.5%	19	12.0%
年間の授業のうち、およそ 1/4 以上 1/2 未満で行った	23	7.4%	16	10.1%
年間の授業のうち、およそ 1/4 未満で行った	44	14.2%	11	7.0%
行っていない	132	42.6%	43	27.2%

小学校		中学校	
76	24.2%	69	43.7%
39	12.4%	25	15.8%
27	8.6%	24	15.2%
37	11.8%	5	3.2%
135	43.0%	35	22.2%

16 算数・数学の授業で、学習内容に応じて、習熟度別の少人数による指導を行っていますか。

16	小学校		中学校	
年間の授業のうち、およそ 3/4 以上で行った	21	6.8%	12	7.6%
年間の授業のうち、およそ 1/2 以上 3/4 未満で行った	10	3.2%	3	1.9%
年間の授業のうち、およそ 1/4 以上 1/2 未満で行った	22	7.1%	1	0.6%
年間の授業のうち、およそ 1/4 未満で行った	51	16.5%	24	15.2%
行っていない	205	66.1%	117	74.1%

小学校		中学校	
24	7.6%	11	7.0%
20	6.4%	5	3.2%
18	5.7%	13	8.2%
46	14.6%	18	11.4%
206	65.6%	111	70.3%

17 数学の授業における指導と評価の改善に「いわて五ツ星の授業づくり」「中学校数学GアップシートEX」をどのように活用していますか。【複数回答】

17	小学校		中学校	
授業づくり(教材研究)	87	28.1%	108	68.4%
実際の授業や家庭学習等	65	21.0%	110	69.6%
評価テスト	15	4.8%	68	43.0%
その他	32	10.3%	7	4.4%

小学校		中学校	
R1年度の新規項目			

18 コンピュータ等の情報通信技術(パソコン、タブレット端末、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネット等)を活用した授業を1クラス当たりどの程度行っていますか。

18	小学校		中学校	
週1回以上	162	52.3%	88	55.7%
月1回以上	118	38.1%	45	28.5%
学期に1回以上	27	8.7%	23	14.6%
ほとんど、または、全く行っていない	2	0.6%	1	0.6%

小学校		中学校	
157	50.0%	75	47.5%
131	41.7%	50	31.6%
25	8.0%	32	20.3%
1	0.3%	1	0.6%

【家庭学習】

19 授業内容の理解を促進する家庭学習の課題(宿題)を、計画的に出していますか。(小5算数、中2数学・英語)

19	小学校		中学校	
出している	250	80.6%	95	60.1%
どちらかといえば出している	56	18.1%	57	36.1%
あまり出していない	3	1.0%	5	3.2%
出していない	0	0.0%	0	0.0%

小学校		中学校	
241	76.8%	94	59.5%
73	23.2%	62	39.2%
0	0.0%	2	1.3%
0	0.0%	0	0.0%

20 家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えていますか。

20	小学校		中学校	
積極的に与えている	44	14.2%	12	7.6%
どちらかといえば与えている	181	58.4%	65	41.1%
あまり与えていない	83	26.8%	75	47.5%
与えていない	1	0.3%	5	3.2%

小学校		中学校	
57	18.2%	9	5.7%
183	58.3%	79	50.0%
72	22.9%	64	40.5%
2	0.6%	6	3.8%

21 各教科において、学年をまたいで単元・領域の系統性を生かした問題等に、年間を通じて計画的・継続的に取り組ませていますか。

21	小学校		中学校	
取り組ませている	49	15.8%	26	16.5%
どちらかといえば取り組ませている	145	46.8%	64	40.5%
あまり取り組ませしていない	112	36.1%	66	41.8%
取り組ませしていない	3	1.0%	1	0.6%

小学校		中学校	
R1年度の新規項目			

22 家庭学習の取り組み方や内容、分量、点検方法等について、校内の教職員で共通理解を図っていますか。

22	小学校		中学校	
図っている	161	51.9%	70	44.3%
どちらかといえば図っている	134	43.2%	65	41.1%
あまり図っていない	14	4.5%	22	13.9%
図っていない	0	0.0%	0	0.0%

小学校		中学校	
168	53.5%	77	48.7%
130	41.4%	62	39.2%
16	5.1%	19	12.0%
0	0.0%	0	0.0%

23 家庭学習の意義や取り組み方について、主にどのような方法で保護者と共通理解を図っていますか。【複数回答】

23	小学校		中学校	
保護者会等での説明	200	64.5%	57	36.1%
期末面談等における面談	44	14.2%	79	50.0%
学校だより等における周知	60	19.4%	17	10.8%
その他	5	1.6%	4	2.5%

小学校		中学校	
R1年度の新規項目			

◎ 24 家庭学習の結果から見られた児童生徒のつまずきを、授業や補充学習等に反映させ、その克服を図っていますか。

	小学校	中学校
24 図っている	91 29.4%	22 13.9%
どちらかといえば図っている	187 60.3%	99 62.7%
あまり図っていない	29 9.4%	36 22.8%
図っていない	2 0.6%	0 0.0%

小学校	中学校
112 35.7%	22 13.9%
178 56.7%	98 62.0%
24 7.6%	37 23.4%
0 0.0%	1 0.6%

【学校の取組】

25 全国学調、県学調について、具体的にどのような目標を設定して計画的に取り組みましたか。【複数回答】

25	小学校	中学校
教科調査の正答率と県平均の差	244 78.7%	135 85.4%
教科調査の正答率	201 64.8%	88 55.7%
教科調査の無解答率と県平均の差	73 23.5%	37 23.4%
教科調査の無解答率	124 40.0%	46 29.1%
児童生徒質問紙の項目	172 55.5%	97 61.4%
同一集団の経年比較	88 28.4%	58 36.7%

小学校	中学校
R1年度の新規項目	

26 県学調の問題(一部を含む)を全教員で解いて、出題の趣旨を分析し共通理解する時間を設定しましたか。

26	小学校	中学校
設定し、実施した	87 28.1%	29 18.4%
設定し、年度中に実施予定である	206 66.5%	102 64.6%
設定していない	17 5.5%	27 17.1%

小学校	中学校
236 75.2%	65 41.1%
75 23.9%	82 51.9%
3 1.0%	11 7.0%

※県学調・全国学調を合わせて

27 全国学調の問題(一部を含む)を全教員で解いて、出題の趣旨を分析し共通理解する時間を設定しましたか。

27	小学校	中学校
設定し、実施した	196 63.2%	54 34.2%
設定し、年度中に実施予定である	103 33.2%	80 50.6%
設定していない	11 3.5%	24 15.2%

小学校	中学校
R1年度の新規項目	

28 教科調査の結果分析の際、何を用いて行っていますか。【複数回答】

28	小学校	中学校
教科全体の正答率	241 77.7%	132 83.5%
問題ごとの正答率	299 96.5%	142 89.9%
分布状況	159 51.3%	90 57.0%
誤答の反応率	116 37.4%	43 27.2%
児童生徒の記述内容(実解答)	137 44.2%	47 29.7%

小学校	中学校
R1年度の新規項目	

29 昨年度の諸調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。

29	小学校	中学校
教科全体の正答率	206 66.5%	81 51.3%
どちらかといえば活用した	101 32.6%	75 47.5%
あまり活用していない	3 1.0%	2 1.3%

小学校	中学校
217 69.1%	88 55.7%
96 30.6%	67 42.4%
1 0.3%	3 1.9%

30 昨年度の県学調の結果を全国学調と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行いましたか。

30	小学校	中学校
行った	171 55.2%	65 41.1%
どちらかといえば行った	126 40.6%	83 52.5%
あまり行っていない	13 4.2%	10 6.3%

小学校	中学校
178 56.7%	70 44.3%
128 40.8%	83 52.5%
8 2.5%	5 3.2%

31 昨年度の県学習定着度状況調査の「集計・分析シート」の内容等から、学習に関する状況や課題を全ての教員で共有し、学校として組織的に課題の分析や指導方法の改善等に取り組んでいますか。

31	小学校	中学校
取り組んでいる	153 49.4%	54 34.2%
どちらかといえば取り組んでいる	146 47.1%	87 55.1%
あまり取り組んでいない	10 3.2%	17 10.8%
取り組んでいない	1 0.3%	0 0.0%

小学校	中学校
165 52.5%	66 41.8%
145 46.2%	89 56.3%
3 1.0%	3 1.9%
1 0.3%	0 0.0%

32 昨年度に作成した『「確かな学び、豊かな学び」実現プラン』等に記載した調査結果の分析内容や目標設定、取組計画などについて、年度をまたいで教職員間で共有し、指導改善に向けて活用していますか。

32	小学校	中学校
活用している	164 52.9%	77 48.7%
どちらかといえば活用している	131 42.3%	65 41.1%
あまり活用していない	13 4.2%	16 10.1%
活用していない	2 0.6%	0 0.0%

小学校	中学校
195 62.1%	75 47.5%
113 36.0%	81 51.3%
5 1.6%	2 1.3%
1 0.3%	0 0.0%

◎ 33 本年度の全国学調の自校の分析結果から見えた児童生徒のつまずきに対応した授業改善を行っていますか。

33	小学校	中学校
行っている	122 39.4%	49 31.0%
どちらかといえば行っている	172 55.5%	99 62.7%
あまり行っていない	13 4.2%	9 5.7%
行っていない	3 1.0%	1 0.6%

小学校	中学校
131 41.7%	51 32.3%
167 53.2%	96 60.8%
15 4.8%	10 6.3%
1 0.3%	1 0.6%

34 授業改善に向けて、校内研修に位置付けた教員相互の授業参観にどの程度取り組んでいますか。

34	小学校	中学校
月に1回以上	90 29.0%	40 25.3%
2ヶ月に1回程度	179 57.7%	33 20.9%
学期に1回程度	39 12.6%	83 52.5%
取り組んでいない	2 0.6%	2 1.3%

小学校	中学校
283 90.1%	123 77.8%
29 9.2%	32 20.3%
2 0.6%	3 1.9%
0 0.0%	0 0.0%

35 校内の授業研究では、児童生徒の発言やノートの記述などに注目し、児童生徒が「何ができるようになったか」という視点で議論を行っていますか。

35	小学校	中学校
行っている	122 39.4%	27 17.1%
どちらかといえば行っている	162 52.3%	88 55.7%
あまり行っていない	26 8.4%	41 25.9%
行っていない	0 0.0%	2 1.3%

小学校	中学校
R1年度の新規項目	

36 校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか。

36	小学校	中学校
ほぼ毎日	228 73.5%	67 42.4%
週に2~3回程度	67 21.6%	67 42.4%
月に数回程度	15 4.8%	24 15.2%
ほとんど行っていない	0 0.0%	0 0.0%

小学校	中学校
226 72.0%	65 41.1%
72 22.9%	70 44.3%
16 5.1%	22 13.9%
0 0.0%	1 0.6%

37 Gアップシートを活用(授業の補充、家庭学習等)していますか。

37	小学校	中学校
活用している(中学校)	3 1.0%	139 88.0%
活用していない(中学校)	2 0.6%	19 12.0%
小学校のため活用なし	305 98.4%	0 0.0%

小学校	中学校
	130 82.3%
	28 17.7%
	28 17.7%

38 昨年度の学校評価や本年度の全国学調の自校の結果等を踏まえた学力向上のための取組について、保護者や地域の人たちに対して働きかけを行いましたか。

38	小学校	中学校
行った	134 43.2%	47 29.7%
どちらかといえば行った	139 44.8%	83 52.5%
あまり行っていない	37 11.9%	28 17.7%

小学校	中学校
112 35.7%	42 26.6%
167 53.2%	92 58.2%
35 11.1%	24 15.2%

39 本年度の全国学調の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか。

39	小学校	中学校
行った	153 49.4%	74 46.8%
行っていない	157 50.6%	84 53.2%

小学校	中学校
88 28.0%	47 29.7%
119 37.9%	66 41.8%

※「どちらかといえば行った」を除く

40 本年度の全国学調の分析結果について、同一地区の中学校(小学校)と成果や課題を共有しましたか。

40	小学校	中学校
共有した	120 38.7%	70 44.3%
共有していない	190 61.3%	88 55.7%

小学校	中学校
56 17.8%	37 23.4%
175 55.7%	71 44.9%

※「どちらかといえば行った」を除く

41 中学校新入生学調、県学調、全国学調について、調査結果の児童生徒個別シートをいつ返却していますか。

41	小学校	中学校
速やかに返却している	206 66.5%	114 72.2%
2学期末の面談等で返却している	102 32.9%	43 27.2%
年度末に返却している	2 0.6%	1 0.6%
返却していない	0 0.0%	0 0.0%

小学校	中学校
297 94.6%	149 94.3%
17 5.4%	9 5.7%

42 中学校新入生学調、県学調、全国学調について、調査結果の児童生徒個別シートを用いた学習相談等の機会を設定していますか。

42	小学校	中学校
設定している	89 28.7%	51 32.3%
設定していない	221 71.3%	107 67.7%

小学校	中学校
125 39.8%	74 46.8%
189 60.2%	84 53.2%

※「どちらかといえば行った」を除く

43 「学習状況調査等の過去問の適切な活用のガイドライン」について、全教員で共通理解を図りましたか。

43	小学校	中学校
図った	214 69.0%	103 65.2%
図っていない	96 31.0%	55 34.8%

小学校	中学校
97 30.9%	39 24.7%
56 17.8%	31 19.6%

※「どちらかといえば行った」を除く

44 「学習状況調査等の過去問の適切な活用のガイドライン」に沿って、諸調査の過去問を適切に活用しましたか。

44	小学校	中学校
積極的に活用した	72 23.2%	10 6.3%
活用した	199 64.2%	90 57.0%
あまり活用していない	39 12.6%	58 36.7%

小学校	中学校
71 22.6%	10 6.3%
203 64.6%	115 72.8%
40 12.7%	33 20.9%

45 平日の部活動や父母会の活動、スポーツ少年団等の活動について、児童生徒の帰宅時刻が遅くならないよう、部活動顧問や父母会・スポーツ少年団活動の責任者や指導者等との連携を図っていますか。【複数回答】

45	小学校	中学校
図っている	49 15.8%	115 72.8%
どちらかといえば図っている	76 24.5%	35 22.2%
あまり図っていない	97 31.3%	3 1.9%
図っていない	38 12.3%	0 0.0%
帰宅時間が遅くなる活動はない	50 16.1%	5 3.2%

小学校	中学校
36 11.5%	98 62.0%
78 24.8%	49 31.0%
89 28.3%	4 2.5%
44 14.0%	1 0.6%
67 21.3%	6 3.8%

46 幼保小の円滑な連携のための「スタートカリキュラム」を具体的に編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。

46	小学校	中学校
している	73 23.5%	4 2.5%
どちらかといえばしている	149 48.1%	12 7.6%
あまりしていない	68 21.9%	4 2.5%
していない	20 6.5%	1 0.6%
中学校のため取組無し	0 0.0%	137 86.7%

小学校	中学校
70 22.3%	
116 36.9%	
97 30.9%	
31 9.9%	
0 0.0%	

47 同一校区の小学校(中学校)と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、共通の取組を行っていますか。

47	小学校	中学校
行っている	82 26.5%	42 26.6%
どちらかといえば行っている	108 34.8%	43 27.2%
あまり行っていない	87 28.1%	58 36.7%
行っていない	33 10.6%	15 9.5%

小学校	中学校
89 28.3%	53 33.5%
99 31.5%	46 29.1%
92 29.3%	43 27.2%
34 10.8%	16 10.1%

48 同一校区の小学校(中学校)と、家庭における学習・生活習慣等について、共通の取組を行っていますか。

48	小学校	中学校
行っている	254 81.9%	118 74.7%
どちらかといえば行っている	37 11.9%	20 12.7%
あまり行っていない	13 4.2%	13 8.2%
行っていない	6 1.9%	7 4.4%

小学校	中学校
247 78.7%	116 73.4%
36 11.5%	21 13.3%
18 5.7%	14 8.9%
13 4.1%	7 4.4%

49 各教科等の特質に応じ、家庭や地域社会と連携しつつ、体系的・継続的な体験活動ができるよう工夫していますか。

49	小学校	中学校
工夫している	164 52.9%	63 39.9%
どちらかといえば工夫している	134 43.2%	71 44.9%
あまり工夫していない	11 3.5%	22 13.9%
工夫していない	1 0.3%	2 1.3%

小学校	中学校
165 52.5%	43 27.2%
132 42.0%	88 55.7%
14 4.5%	23 14.6%
3 1.0%	4 2.5%

50 伝統的な文化芸術活動を学習または発表する活動を行っていますか。

50	小学校	中学校
行っている	212 68.4%	81 51.3%
どちらかといえば行っている	53 17.1%	29 18.4%
あまり行っていない	29 9.4%	30 19.0%
行っていない	16 5.2%	18 11.4%

小学校	中学校
181 57.6%	68 43.0%
83 26.4%	44 27.8%
33 10.5%	30 19.0%
17 5.4%	16 10.1%

事務報告 3

令和2年度県立一関第一高等学校附属中学校入学者選抜に係る出願状況について

1 入学願書受付期間

令和元年11月29日（金）から令和元年12月5日（木）正午まで

2 入学志願者数

	定員	入学志願者数	志願倍率	備考
計	70	119	1.70	・男女枠なし ・35人学級、2クラス編成の定員

(参考) 過去の志願者数

平成31年度				平成30年度			
区分	定員	入学志願者数	志願倍率	区分	定員	入学志願者数	志願倍率
男子	40	76	1.90	男子	40	77	1.93
女子	40	84	2.10	女子	40	89	2.23
計	80	160	2.00	計	80	166	2.08

「県立博物館における文化財への不適切行為事案」調査の経過報告について

【要旨】

標記事案に係る重要文化財の調査結果（中間報告）等について、別添のとおり御報告します。

なお、概要については、以下のとおりです。

1 文化財資料における無断切取り行為の有無について

(1) 平泉町柳之御所遺跡・平泉遺跡群の重要文化財（調査対象 76 点）の調査結果

ア 岩手県所有分 13 点のうち、「火舎、花瓶」2 点に対して、重要文化財指定（H22）後に無断切取り行為が行われていたことが判明した。【表 1】

イ 平泉町所有分 63 点については、承諾の有無が不明なものや切取り痕跡を確認できないものなどがあつたが、無断切取り行為は確認されなかつた。【表 2】

ウ サンプル採取の目的は、学術情報収集（活用、保存を含む）にあつた。

【表 1】 「岩手県所有分 13 点」の結果		サンプル採取痕跡（切取り痕跡）		
		【有り】	【特定できない】	【無し】
		6 点	4 点	3 点
承諾の有無	ア 所有者の承諾有り	0	3	/
	イ 所有者の承諾の有無が不明	4	0	
	ウ 所有者の承諾無し	1 (火舎)	1 (花瓶)	
	エ その他	1 (内耳鉄鍋)	0	



火舎（側面）



火舎（上面）



花瓶



内耳鉄鍋

【表 2】 「平泉町所有分 63 点」の結果		サンプル採取痕跡（切取り痕跡）			
		【有り】	【特定できない】	【不明】	【無し】
		23 点	4 点	1 点	35 点
承諾の有無	ア 所有者の承諾有り	13	4	1	/
	イ 所有者の承諾の有無が不明	10	0		
	ウ 所有者の承諾無し	0	0		
	エ その他	0	0		

(2) 当該専門職員の文化財の切取り行為について

ア 県立博物館における文化財の切取り行為は、当該専門職員自身や当該専門職員の指示を受けた作業員が行つたものである。

イ サンプル採取の目的は、保存処理方法等の見極めと学術情報収集（活用、保存を含む）にあつた。

2 県立博物館、文化振興事業団及び県教育委員会事務局の平成 26 年度無断切取り行為等事案発覚当時の対応について

(1) 県立博物館及び文化振興事業団の状況

- ア 平成 26 年度無断切取り行為等事案の発生後、県立博物館において当該専門職員を含む内部職員に対する聴き取り調査が行われたが、事実解明は行われず、不十分な調査に終わった。
- イ 平成 27 年 3 月に文化振興事業団から県教育委員会事務局あてに提出された事故報告書において、「他の文化財にも不適切な行為があったかどうかの確認はできておらず、今後も順次検証することとしていることから、確認でき次第報告する」との記述があるものの、十分な調査は行われることなく、新たな事案の報告はされなかった。
- ウ 調査対象が広げられなかったことは、県立博物館の事案対応が特定の職員に集中しており、全容解明に向けて、県立博物館及び文化振興事業団組織全体で取り組む姿勢や体制が不十分であったことが一因である。

(2) 県教育委員会事務局の状況

- ア 文化振興事業団からの事故報告書の提出の後、翌年の平成 28 年 2 月に、無断切取りが非違行為に当たるかどうかについての県外専門機関等からの聴き取り調査結果等に関する追加報告書の提出を受け、その情報を踏まえ措置検討が行われた。その結果、「文書訓告が適当」と判断され、その旨文化振興事業団に通知された。
- イ 県教育委員会事務局も、事故報告書等の情報を踏まえ、他に同様の事案がないかどうかについての調査の実施を指導・支援する姿勢が必要であったものと考えられる。
- ウ 本事案の背景には、県立博物館及び文化振興事業団との情報の共有や連携の不足、危機管理対応の不十分さなどがあったといえる。

3 当面の再発防止策

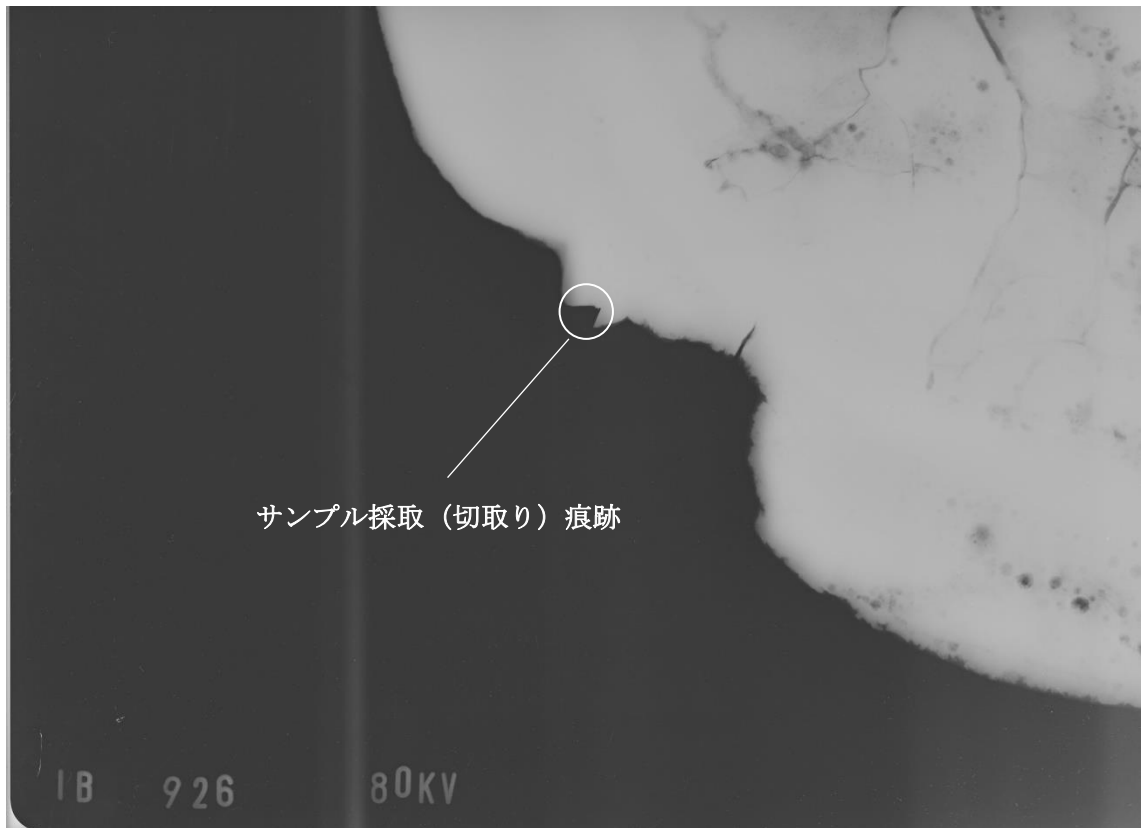
- (1) 公共財への意識を高めるためのモラル研修の実施
- (2) 管理監督者向け組織マネジメント等研修の実施
- (3) 月例報告書への「組織マネジメントに関すること」の項目追加

4 今後の調査の進め方

- (1) 他道県の重要文化財に係る調査の継続
- (2) 重要文化財以外の文化財に関する調査
- (3) 県立博物館、文化振興事業団及び県教育委員会事務局の組織的対応に関する調査



火舎（上から）（サンプル採取前）



火舎のX線写真

岩手県所有の**重要文化財**への無断切り取り行為が行われていたことを受け、**文化財保護法第 33 条**の規定により、本日（12 月 16 日）付けで文化庁に対して**き損届**を提出することとしますので、御報告します。

1 対象となる重要文化財について

岩手県所有 ^{かしや}火舎 及び ^{けびょう}花瓶（計 2 点）



火 舎

花 瓶

2 重要文化財指定年月日

平成 22 年 6 月 29 日

3 き損の事実が生じた期日及び場所

(1) 期日 平成 24 年 4 月頃

(2) 場所 岩手県立博物館

4 き損の事実を知った日

令和元年 12 月 16 日

<参考>文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）（抄）

（滅失、き損等）

第 33 条 重要文化財の全部又は一部が滅失し、若しくはき損し、又はこれを亡失し、若しくは盗み取られたときは、**所有者**（管理責任者又は管理団体がある場合は、その者）は、文部科学省令の定める事項を記載した書面をもって、その**事実を知った日から 10 日以内**に文化庁長官に届け出なければならない。

議案第25号

岩手県教育振興基本対策審議会委員の任命に関し議決を求めることについて
次のとおり岩手県教育振興基本対策審議会委員の任命をすることについて、議決を求める。
任命（令和元年12月20日付）

職 名 等	氏 名
釜石市長	野 田 武 則
矢巾町長	高 橋 昌 造
滝沢市教育委員会教育長	熊 谷 雅 英
雫石町教育委員会教育長	作 山 雅 宏
社団法人岩手県PTA連合会副会長	岩 舘 智 子
岩手県高等学校PTA連合会母親委員	下 村 芳 恵
岩手県社会教育連絡協議会副会長	熊 林 千 司
財団法人岩手県体育協会理事	浅 沼 道 成
一般社団法人岩手県芸術文化協会理事	小笠原 卓 雄
盛岡スコーレ高等学校校長 岩手県私立小中高等学校保護者会監事	及 川 求
岩手大学教育学部教授	田 代 高 章
富士大学経済学部教授	佐々木 修 一
宮古市立山口小学校支援地域本部地域コーディネーター	佐々木 良 恵
岩手大学教育学部教授	山 本 獎
岩手大学教育学部准教授	滝 吉 美知香
泉金酒造株式会社常務取締役	八重樫 由 吏
いちのへサンビレッジクラブ代表	西 舘 敦
株式会社長島製作所代表取締役社長	新 宮 由紀子

令和元年12月16日提出

岩手県教育委員会教育長 佐 藤 博

理由

岩手県教育振興基本対策審議会委員の任命をしようとするものである。これが、この議案を提出する理由である。

岩手県教育振興基本対策審議会の任用 新旧対照表 (案)

現 (任期：平成29年12月20日から令和元年12月19日まで) (注) 年齢は令和元年12月19日時点

区分	職名等	氏名	年齢	性別	居住地
第1号委員 (市町村長)	釜石市長	野田 武 則	66	男	釜石市
	矢巾町長	高 橋 昌 造	74	男	矢巾町
第2号委員 (市町村教育委員会教育長)	滝沢市教育委員会教育長	熊 谷 雅 英	67	男	滝沢市
	矢巾町教育委員会教育長	和 田 修	64	男	矢巾町
第3号委員 (教育関係団体の役員)	一般社団法人岩手県PTA連合会顧問	五十嵐 のぶ代	51	女	盛岡市
	岩手県高等学校PTA連合会理事・母親委員長	菊 池 まゆみ	52	女	盛岡市
	岩手県社会教育連絡協議会副会長	熊 林 千 司	60	男	盛岡市
	公益財団法人岩手県体育協会理事	浅 沼 道 成	61	男	盛岡市
	一般社団法人岩手県芸術文化協合理事	小笠原 卓 雄	73	男	花巻市
第4号委員 (学識経験者)	盛岡スコーレ高等学校校長 岩手県私立小中高等学校保護者会監事	及 川 求	63	男	北上市
	岩手大学教育学部教授	田 代 高 章	58	男	盛岡市
	富士大学経済学部教授	佐々木 修 一	66	男	花巻市
	宮古市立山口小学校支援地域本部 地域コーディネーター	佐々木 良 恵	56	女	宮古市
	岩手大学教育学部教授	山 本 獎	60	男	盛岡市
植草学園大学発達教育学部教授	名古屋 恒 彦	53	男	盛岡市	
泉金酒造株式会社常務取締役	八重樫 由 史	58	女	岩泉町	
いちのへサンビレッジクラブ代表	西 館 敦	40	男	一戸町	
株式会社社長島製作所代表取締役社長	新 宮 由 紀子	46	女	一関市	

◎ 委員数【原則20人以内】 18人
 ◎ 女性委員登用率【男女いずれも40%以上目標】 27.8% (5名/18名)
 ◎ 若手委員 (50歳未満) 登用率【25%以上目標】 11.1% (2名/18名)
 ◎ 委員の平均年齢 (R元. 12. 19現在) 59.3歳
 ◎ 在任期間8年超 なし

新 (任期：令和元年12月20日から令和3年12月19日まで) (注) 年齢は令和元年12月20日時点

区分	職名等	氏名	年齢	性別	居住地
第1号委員 (市町村長)	釜石市長	野 田 武 則	66	男	釜石市
	矢巾町長	高 橋 昌 造	74	男	矢巾町
第2号委員 (市町村教育委員会教育長)	滝沢市教育委員会教育長	熊 谷 雅 英	67	男	滝沢市
	雫石町教育委員会教育長	作 山 雅 宏	66	男	盛岡市
第3号委員 (教育関係団体の役員)	一般社団法人岩手県PTA連合会副会長	岩 館 智 子	45	女	盛岡市
	岩手県高等学校PTA連合会母親委員	下 村 芳 恵	40	女	滝沢市
	岩手県社会教育連絡協議会副会長	熊 林 千 司	60	男	盛岡市
	公益財団法人岩手県体育協会理事	浅 沼 道 成	61	男	盛岡市
	一般社団法人岩手県芸術文化協合理事	小笠原 卓 雄	73	男	花巻市
第4号委員 (学識経験者)	盛岡スコーレ高等学校校長 岩手県私立小中高等学校保護者会監事	及 川 求	63	男	北上市
	岩手大学教育学部教授	田 代 高 章	58	男	盛岡市
	富士大学経済学部教授	佐々木 修 一	66	男	花巻市
	宮古市立山口小学校支援地域本部 地域コーディネーター	佐々木 良 恵	56	女	宮古市
	岩手大学教育学部教授	山 本 獎	60	男	盛岡市
岩手大学教育学部准教授	滝 吉 美 知 香	37	女	盛岡市	
泉金酒造株式会社常務取締役	八重樫 由 史	58	女	岩泉町	
いちのへサンビレッジクラブ代表	西 館 敦	40	男	一戸町	
株式会社社長島製作所代表取締役社長	新 宮 由 紀子	46	女	一関市	

◎ 委員数【原則20人以内】 18人
 ◎ 女性委員登用率【男女いずれも40%以上目標】 33.3% (6名/18名)
 ◎ 若手委員 (50歳未満) 登用率【25%以上目標】 27.8% (5名/18名)
 ◎ 委員の平均年齢 (R元. 12. 20現在) 57.6歳
 ◎ 在任期間8年超 なし

岩手県教育振興基本対策審議会条例

〔昭和38年10月15日〕
〔 条 例 第 4 4 号 〕

最終改正 平成31年3月26日条例第51号

(設置)

第1条 教育振興基本対策に関し必要な事項を調査審議するため、教育委員会の諮問機関として岩手県教育振興基本対策審議会（以下「審議会」という。）を置く。

(所掌)

第2条 審議会の所掌事項は、次のとおりとする。

- (1) 教育水準の向上に関すること。
- (2) 教育の機会均等の拡充に関すること。
- (3) 教育環境の整備に関すること。
- (4) 前各号に掲げるもののほか、教育振興基本対策に関すること。

(組織)

第3条 審議会は、委員18人以内をもって組織し、委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が任命する。

- (1) 市町村長
- (2) 市町村教育委員会教育長
- (3) 教育関係団体の役職員
- (4) 学識経験者
- (5) 関係行政機関の職員

2 委員の任期は、2年とする。ただし、欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第4条 審議会に会長及び副会長1人を置き、委員の互選とする。

2 会長は、会務を総理し、会議の議長となる。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 審議会は、教育委員会が招集する。

2 審議会は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

3 審議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第6条 審議会の庶務は、教育委員会の事務局において処理する。

(補則)

第7条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営その他に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (昭和58年3月15日条例第19号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (平成13年7月9日条例第57号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (平成31年3月26日条例第51号)

この条例は、公布の日から施行する。

議案第 26 号

岩手県いじめ問題対策委員会専門委員の任命に関し議決を求めることについて

次のとおり岩手県いじめ問題対策委員会専門委員の任命をすることについて、議決を求める。

任命（令和 2 年 1 月 12 日付）

職 名 等	氏 名
臨床心理士	宮 古 守 夫

令和元年 12 月 16 日提出

岩手県教育委員会教育長 佐 藤 博

理由

岩手県いじめ問題対策委員会専門委員の任命をしようとするものである。これが、この議案を提出する理由である。

岩手県いじめ問題対策委員会専門委員（案）

（任期：R2.1.12～当該専門事項に関する調査審議終了まで）

専門委員	臨床心理士	宮古守夫	76	男	盛岡市		無
------	-------	------	----	---	-----	--	---

※年齢：令和2年1月12日現在

岩手県いじめ問題対策委員

（任期：R2.1.12～R4.1.11。ただし、専門委員はR2.1.12～当該専門事項に関する調査審議終了まで）

分野	職名等	氏名	年齢	性別	居住地	年数	兼任
学識経験者	公立大学法人岩手県立大学 副学長	石 瑩 淳	62	男	盛岡市	3期	有
	国立大学法人岩手大学 教育学部 准教授	菊 地 洋	48	男	盛岡市	2期	無
弁護士	太田秀栄法律事務所 弁護士	太 田 秀 栄	61	男	盛岡市	3期	有
	山中法律事務所 弁護士	山 中 俊 介	45	男	盛岡市	3期	無
医師	社団医療法人法成会 平和台病院 医師	伊 藤 欣 司	58	男	盛岡市	3期	無
	一般財団法人岩手済生医会 三田記念病院 医師	星 克 仁	49	男	盛岡市	3期	有
臨床心理士	臨床心理士	高 橋 昇	63	男	奥州市	3期	無
	臨床心理士	上 野 久仁子	39	女	盛岡市	新任	無
社会福祉士	イーハトーブ地域包括支援センター 主任介護支援専門員	鈴 木 智 之	41	男	盛岡市	2期	無
	社会福祉法人岩手県社会福祉協議会 地域福祉活動コーディネーター	川 崎 舞 美	39	女	盛岡市	新任	無

※年齢：令和2年1月12日現在

岩手県いじめ問題対策委員会専門委員名簿

（任期：H30.1.12～当該専門事項に関する調査審議終了まで）

専門委員	国立大学法人岩手大学 教育学部 教授	塚 野 弘 明	65	男	紫波町		無
	かな福祉相談支援事務所 社会福祉士	高 橋 岳 志	44	男	花巻市		無

※年齢：令和2年1月12日現在

関係条例

岩手県いじめ問題対策委員会条例をここに公布する。

平成 27 年 10 月 28 日

岩手県知事 達 増 拓 也

岩手県条例第 72 号

岩手県いじめ問題対策委員会条例

(設置)

第 1 条 いじめ防止対策推進法（平成 25 年法律第 71 号。以下「法」という。）第 14 条第 3 項の規定に基づき、岩手県いじめ問題対策委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(所掌)

第 2 条 委員会の所掌事項は、次のとおりとする。

- (1) 法第 12 条の規定により定められた岩手県いじめ防止等のための基本的な方針に基づくいじめの防止等のための対策について調査審議すること。
- (2) 法第 24 条の規定による調査を行うこと。
- (3) 法第 28 条第 1 項の規定による調査を行うこと。

(組織)

第 3 条 委員会は、委員 10 人以内をもって組織し、委員は、法律、医療、心理、福祉等に関し学識経験のある者のうちから教育委員会が任命する。

- 2 委員の任期は、2 年とする。ただし、欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、委員の互選とする。

- 2 委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。
- 3 委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。

(専門委員)

第 5 条 委員会に、専門の事項を調査審議させるため、専門委員を置くことができる。

- 2 専門委員は、当該専門の事項に関して十分な知識又は経験を有する者のうちから教育委員会が任命する。
- 3 専門委員は、当該専門の事項に関する調査審議が終了したときは、解任されるものとする。

(会議)

第 6 条 委員会は、委員長が招集する。

- 2 委員会は、委員及び議事に関係のある専門委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 委員会の議事は、出席した委員及び議事に関係のある専門委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(部会)

第 7 条 委員会に、部会を置くことができる。

- 2 部会は、委員長の指名する委員及び専門委員をもって組織する。
- 3 委員会は、その定めるところにより、部会の議決をもって委員会の議決とすることができる。
- 4 第 4 条及び前条の規定は、部会について準用する。

(意見の聴取等)

第 8 条 委員会は、必要に応じて議事に関係のある者の出席を求め、その意見若しくは説明を聴き、又は必要な資料の提出を求めることができる。

(秘密を守る義務)

第 9 条 委員及び専門委員は、職務上知ることのできた秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、同様とする。

(庶務)

第 10 条 委員会の庶務は、教育委員会の事務局において処理する。

(補則)

第 11 条 この条例に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

議案第 27 号

岩手県立博物館協議会委員の任命及び解任に関し議決を求めることについて
次のとおり岩手県立博物館協議会委員の任命及び解任をすることについて、議決を求める。

1 任命（令和元年 12 月 23 日付）

職 名 等	氏 名
盛岡市立東松園小学校校長	本 田 岳 雄
公募委員	小 山 信 一

2 解任（令和元年 12 月 22 日付）

氏 名	任 命 年 月 日	解 任 理 由
嶋 野 恵美子	令和元年 6 月 23 日	辞任の申出があったため

令和元年 12 月 16 日提出

岩手県教育委員会教育長 佐 藤 博

理由

岩手県立博物館協議会委員の任命及び解任をしようとするものである。これが、この議案を提出する理由である。

補欠委員 (R1. 12. 23～R3. 6. 22)

公募委員 (R1. 12. 23～R3. 12. 22)

分野	現職	氏名	年齢	性別	居住地	年数	
学校教育関係者	盛岡市立東松園小学校校長	ほんだ たくお 本 田 岳 雄	55	男	盛岡市	新任	
	盛岡市立厨川中学校校長	きくち まさき 菊 池 正 樹	59	男	盛岡市	1期	
	岩手県立盛岡第四高等学校校長	いつかいち たけし 五 日 市 健	59	男	盛岡市	1期	
社会教育・家庭教育関係者	岩手県青年団体協議会会長	まつだ えみこ 松 田 恵美子	33	女	陸前高田市	3期	
	特定非営利活動法人岩手県地域婦人団体協議会理事	だいぼう くにご 大 坊 邦 子	77	女	岩手町	1期	
	一般社団法人岩手県PTA連合会副会長	たまだて まこと 玉 館 誠	47	男	軽米町	2期	
学識経験者	団体推薦等	石神の丘美術館主任学芸員	さいとう ももこ 齋 藤 桃 子	41	女	岩手町	4期
		八幡平市教育委員会教育長	ほし としや 星 俊 也	64	男	盛岡市	2期
		岩手県立博物館友の会会員	ほそごえ ちえこ 細 越 千絵子	50	女	盛岡市	2期
		株式会社岩手日報社編集局学芸部次長	おいかわ あきこ 及 川 亜希子	45	女	盛岡市	1期
	個人	岩手医科大学教授	まつまさ まさとし 松 政 正 俊	59	男	盛岡市	2期
		岩手大学教授	かんの ふみお 菅 野 文 夫	64	男	盛岡市	3期
		啄木研究家	やまもと れいこ 山 本 玲 子	62	女	八幡平市	1期
		盛岡ふるさとガイドの会	ぬまさと ゆきこ 沼 里 由紀子	77	女	滝沢市	4期
公募委員		おやま しんいち 小 山 信 一	76	男	一関市	新任	

※年齢：令和元年12月23日現在

チェック項目	令和元年6月改選時	今回
◎ 委員数【15人以内】	14人(新任6人)	15人(新任2人)
◎ 男女共同参画の推進に配慮【男女いずれか一方が総委員数の40%未満にならないこと】	男：女 42.9%：57.1%	男：女 53.3%：46.7%
◎ 若手委員(50歳未満登用率【25%以上目標】)	28.6%(4/14)	26.6%(4/15)
◎ 委員の平均年齢	56.4歳	57.9歳
◎ 在任期間8年超	なし	なし